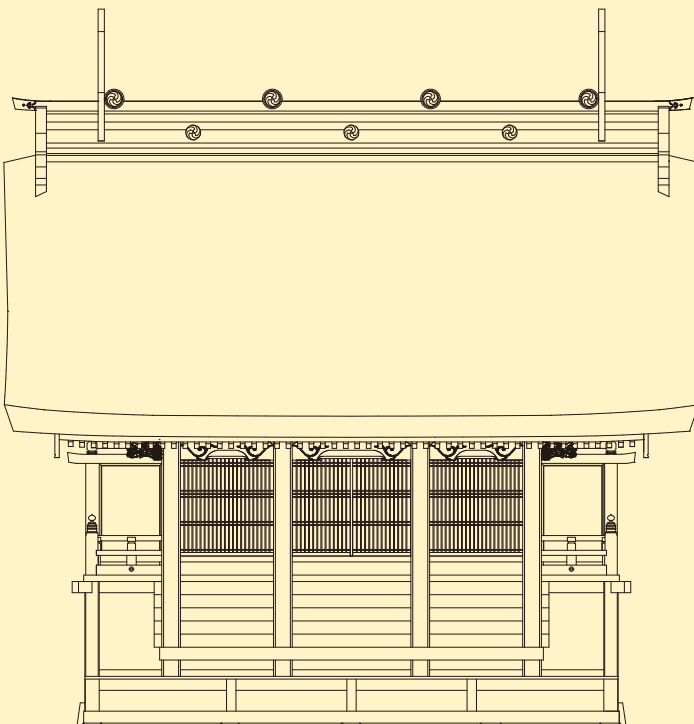


公益財団法人
和歌山県文化財センター年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2021





1 里野中山城跡第2次 北上空から



2 新堂遺跡 南上空から



3 藤崎弁天堂竣工正面



4 木ノ本八幡神社本殿竣工正面

目 次

令和3年度(2021) 受託業務一覧	2
--------------------	---

令和3年度(2021) 受託業務所在地図	3
----------------------	---

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等

尼寺観音寺跡の発掘調査	4
入郷遺跡の発掘調査	6
且来Ⅴ遺跡及び且来Ⅵ遺跡の発掘調査等業務	7
小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡の発掘調査	8
新堂遺跡の発掘調査	10
里野中山城跡第2次の発掘調査業務	11
由良要塞跡の確認調査等支援	12
和田遺跡第4次発掘調査技術職員等支援	12
太田・黒田遺跡第98次の発掘調査支援	13
県立考古民俗博物館建設に伴う 埋蔵文化財確認調査等の発掘調査支援	14
岩橋千塚古墳群寺内地区確認調査等支援	14
田井遺跡、西川遺跡、堂の前西沼遺跡発掘調査等支援	15
荊木遺跡の発掘調査支援	15
上村遺跡の発掘調査支援	16
立平遺跡の本発掘調査支援	16
県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査支援	17
新宮城下町遺跡の出土遺物等整理支援(3)	17

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 闘雞神社本殿ほか3棟 保存修理技術指導業務	18
重要文化財 金剛峯寺奥院経蔵 保存修理技術指導業務	19
史跡 旧名手宿本陣整備事業名手役所主屋及び離れ・ 蔵復旧整備その3工事設計監理業務	20
県指定文化財 須賀神社本殿 保存修理技術指導業務	21
県指定文化財 木ノ本八幡神社本殿 保存修理技術指導業務	22
県指定名勝 藤崎弁天堂修理工事 その2工事設計監理業務	23
重要文化財 増田家住宅表門 保存修理技術指導業務	24
名勝 和歌の浦観海閣整備事業に係る 実施設計委託業務	24
県指定史跡 中世行幸御泊所跡保存活用整備事業 に係る技術指導	25
令和3年度指定文化財図面作成業務	25

関連研究・資料紹介

且来Ⅴ遺跡及び且来Ⅵ遺跡発掘調査から考える 土地利用について	26
-----------------------------------	----

普及活動

令和3(2021)年度の普及啓発事業	30
--------------------	----

センター概要

令和3(2021)年度概要	34
---------------	----

巻 頭 写 真

- 1 里野中山城跡第2次 北上空から
- 2 新堂遺跡 南上空から

- 3 藤崎弁天堂竣工正面
- 4 木ノ本八幡神社本殿竣工正面

例 言

- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが令和3年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務・調査・技術支援等及び普及啓発活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載した地図は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課が発行する「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図」「和歌山県地理情報システム」<http://www2.wagmap.jp/wakayamaken/Portal/>(和歌山県企画部企画政策局情報政策課)(地図は、国土地理院発行の数値地図)の複製を一部加筆し引用した。
- 3 掲載写真・図面は、基本的に事業の実施に伴い撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理作業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 4 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、大給友樹・濱崎範子が担当した。

令和3年度(2021) 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

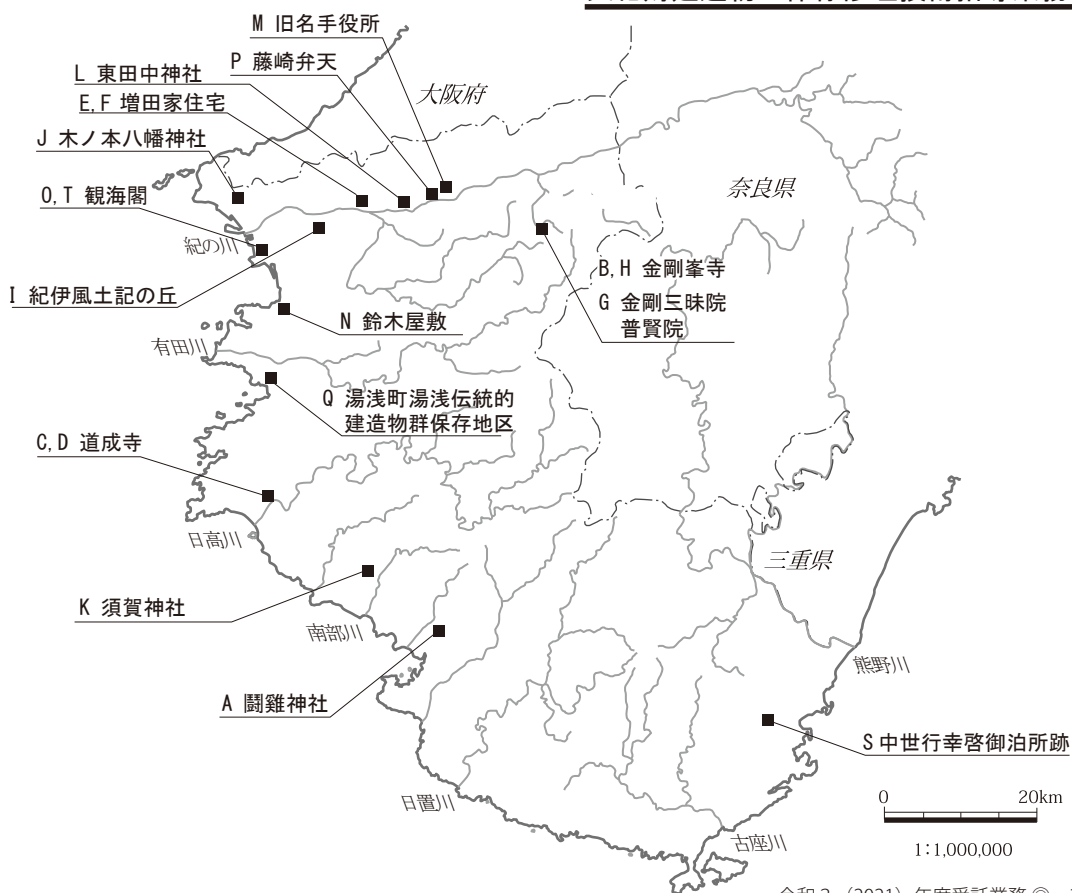
埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	六十谷第2浄水場更新用地和田遺跡第4次発掘調査技術職員等支援業務	和歌山市六十谷	2021.04.01～ 2021.06.30	—	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団
2	新宮城下町遺跡出土遺物等整理支援業務(3)	新宮市下本町	2021.04.27～ 2022.01.31	—	新宮市
3	津波避難施設建設工事に伴う田井遺跡、西川遺跡、堂の前西沼遺跡発掘調査支援業務	日高郡美浜町田井・和田	2021.05.08～ 2021.06.30	—	美浜町
4	県営中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡発掘調査業務	日高郡日高町小浦	2021.05.13～ 2021.11.30	845.7㎡	和歌山県
5	県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備事業に伴う尼寺観音寺跡発掘調査業務	紀の川市貴志川町尼寺	2021.06.11～ 2022.02.28	799.8㎡	和歌山県
6	宅地造成工事に伴う荊木遺跡発掘調査支援事業	日高郡日高町萩原	2021.06.14～ 2021.08.31	—	有限会社ハウジングギャラリー
7	令和3年度岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴う埋蔵文化財確認調査等支援業務	和歌山市寺内・森小手穂	2021.06.18～ 2022.03.25	—	和歌山県
8	令和3年度県立考古民俗博物館建設に伴う埋蔵文化財確認調査等支援業務	和歌山市岩橋	2021.06.30～ 2022.03.31	—	和歌山県
9	太田・黒田遺跡第98次発掘調査技術職員等支援業務	和歌山市太田	2021.08.16～ 2021.11.30	—	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団
10	すさみ申本道路建設事業に伴う里野中山城跡第2次発掘調査業務	西牟婁郡すさみ町里野	2021.08.19～ 2022.01.31	342.1㎡	近畿地方整備局紀南河川国道事務所
11	秋月海南線道路改良事業に伴う且来Ⅴ遺跡及び且来Ⅵ遺跡発掘調査等業務	海南市且来	2021.09.13～ 2022.03.10	145.4㎡	和歌山県
12	宅地造成工事に伴う上村遺跡発掘調査支援業務	西牟婁郡上富田町朝来	2021.10.22～ 2021.12.28	—	上富田町
13	一般国道42号有田海南道路建設事業に伴う新堂遺跡発掘調査業務	有田市新堂	2021.11.23～ 2022.03.31	966.3㎡	近畿地方整備局和歌山河川国道事務所
14	町道156号・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査業務	伊都郡九度山町入郷	2021.12.23～ 2022.03.31	369.5㎡	九度山町
15	和歌山県立熊野高等学校寄宿舎建設工事に係る上富田町生馬地内立平遺跡本発掘調査支援業務	西牟婁郡上富田町生馬	2021.12.01～ 2021.12.27	—	和歌山県
16	由良要塞確認調査等支援業務	和歌山市深山	2022.01.28～ 2022.03.31	—	和歌山県
17	令和3年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査支援業務	和歌山県内	2022.02.02～ 2022.03.31	—	和歌山県
文化財建造物の保存修理技術指導業務等					
	受託業務の名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	重要文化財(建造物) 闘雞神社本殿ほか3棟保存修理技術指導業務	田辺市東陽	2020.06.08～ 2022.12.31	4棟	宗教法人 闘雞神社
B	重要文化財(建造物) 金剛峯寺奥院経蔵 保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2020.06.01～ 2022.03.31	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
C	重要文化財(建造物) 道成寺本堂保存修理技術指導	日高川町鐘巻	2021.06.17～ 2021.09.30	1棟	宗教法人道成寺
D	重要文化財(建造物) 道成寺本堂保存修理基本設計作成補助	日高川町鐘巻	2021.04.05～ 2021.04.16	1棟	宗教法人道成寺
E	重要文化財(建造物) 増田家住宅表門保存修理事業技術指導	岩出市曾屋	2021.11.09～ 2022.10.31	1棟	増田 裕
F	重要文化財(建造物) 増田家住宅表門保存修理基本設計作成補助	岩出市曾屋	2021.08.17～ 2022.08.31	1棟	増田 裕
G	重要文化財(建造物) 金剛三昧院経堂保存修理基本設計 重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理基本設計	伊都郡高野町高野山	2021.11.25～ 2022.03.31	各1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
H	重要文化財(建造物) 金剛三昧院経蔵保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2022.02.01～ 2022.09.30	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
I	令和3年度紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指導	和歌山市岩橋	2022.03.05～ 2022.03.31	—	和歌山県教育委員会
J	和歌山県指定文化財(建造物) 木ノ本八幡神社本殿保存修理技術指導	和歌山市西庄	2020.11.01～ 2021.12.31	1棟	宗教法人木ノ本八幡宮
K	和歌山県指定文化財(建造物) 須賀神社本殿保存修理技術指導	みなべ町西本庄	2021.04.06～ 2022.03.31	3棟	宗教法人須賀神社
L	和歌山県指定文化財(建造物) 東田中神社境内社旧竹房神社本殿保存修理基本設計	紀の川市打田	2021.12.03～ 2022.03.31	1棟	宗教法人東田中神社
M	名手役所主屋及び離れ・蔵復旧整備その3工事設計監理	紀の川市名手市場	2021.04.13～ 2023.03.31	2棟	紀の川市
N	熊野参詣道紀伊路歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業(鈴木屋敷)技術支援	海南市藤白	2021.04.07～ 2023.03.25	1棟	宗教法人藤白神社
O	令和2年度名勝和歌の浦観海閣復元基本設計委託	和歌山市和歌浦中	2022.01.12～ 2022.06.30	1棟	和歌山県教育委員会
P	県指定名勝 藤崎弁天堂 修理その2工事設計監理	紀の川市藤崎	2021.04.23～ 2022.03.31	1棟	紀の川市
Q	湯浅伝建地区保存修理技術指導等委託	湯浅町湯浅	2021.07.01～ 2022.03.28	—	湯浅町
R	令和3年度指定文化財図面作成	和歌山県内	2021.09.24～ 2022.03.31	—	和歌山県教育委員会
S	和歌山県指定文化財(史跡) 中世行幸啓御泊所跡保存活用整備事業に係る技術指導	東牟婁郡那智勝浦町那智山	2021.11.30～ 2022.03.31	1棟	宗教法人青岸渡寺
T	観海閣復元整備に係る実施設計	和歌山市和歌浦中	2022.01.12～ 2022.06.30	1棟	和歌山県教育委員会

令和3(2021)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・支援業務等



文化財建造物の保存修理技術指導業務等



尼寺観音寺跡の発掘調査

遺跡の時代：中世～近世

所在地：紀の川市貴志川町尼寺地内

調査の原因：県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備

調査期間：2021.09～2022.01

調査コード：21-10・009



尼寺観音寺跡調査区全景（南西上空から）

はじめに

尼寺観音寺跡は、貴志川支流である丸田川北岸の台地上に所在する、東西約 300 m、南北約 200 m の範囲にある遺跡で、今回の調査地は遺跡の北辺にあたる。

この遺跡は、これまで発掘調査は行われておらず、周辺で奈良時代の軒丸瓦が採集されており、現在の観音寺の北にあたるため、古代寺院関連の遺構や遺物の新発見が期待された。

本遺跡の北東方に、奈良時代前期（白鳳時代）の寺院である法隆寺式伽藍配置の北山廃寺があり、過去の調査で瓦窯 3 基、瓦製作に伴う粘土採掘坑、古代寺院の塔跡塔が確認された。

西方に奈良時代から鎌倉時代の環状配石遺構や敷石遺構等の祭祀遺構が確認された岸宮祭祀遺跡が存在する。

調査の成果

今回の発掘調査地点は、現況としては水田と市道部分にあたり、東側の調査区を 1 区、西側の調査区を 2



遺跡位置図 9. 尼寺観音寺跡

区として調査面積 799.8㎡について実施した。

今回の調査地における基本層序は、第 1 層が現代の水田耕作土、第 2 層が現代の水田床土、第 3 層が遺物包含層で、中世以降の土器を多く含むことから、その下層である第 4 層の耕作地を埋めた造成土と考えられる。第 4 層は径 1～3 cm の礫や細砂、マンガン粒が混じる耕作土である。第 5 層は地山層で、この上面で中世以降の遺構が確認された。1 区は標高 39 m で地山面が、2 区は標高 40 m ほどで遺構面が確認された。遺構面では畦畔が確認され、幅 0.4～0.6 m の畦畔と畦畔の間は 2.8～3.5 m 前後の間隔があった。中世土器を多く含むことから中世段階でつくられた水田跡と考えられる。

1・2 区ともに、北から南に向かって傾斜し、1 区においては、北西から南東に流れる自然流路によって地山面が削られて形成された微高地を確認した。

2 区では、掘立柱建物跡 2 棟、土坑、溝、小穴等が確認された。

調査区北に位置する 2 間×2 間の掘立柱建物跡 1、掘立柱建物跡 1 に隣接する 2 間×3 間の掘立柱建物跡



尼寺観音寺跡調査区全景（西上空から）

2が確認された。掘立柱建物跡1の柱穴跡の埋土から中国製青磁碗片、土師器片が出土している。どちらも柱穴として浅いことから後世の削平を受けているものと思われる。

掘立柱建物跡2に南接するレンズ状の窪みをもつ浅い79土坑からは、鎌倉時代から室町時代頃の土師器皿、土師質羽釜片等の煮炊具が出土した。

調査区南では南北方向の近世溝が確認された。人頭大の川原石を南に面して石の平坦な面を揃えて積んでいる部分が一部で確認されたことから、石積の溝であったと思われる。調査区を南北方向に続いていた市道・中21号線の下層から検出され、出土遺物から江戸時代後期には存在したと思われる。

1区の造成土と耕作土から、土師器や瓦器等が出土した。自然流路の砂礫を含むシルト層から、弥生時代後期末から古墳時代初頭の土師器片が出土した。

2区では、中世の柱穴から中国製青磁碗や土師器、中世の土坑から土師質羽釜や皿等、遺物包含層から古墳時代の須恵器の坏や甕の破片、古代の布目瓦、中世から近世の瓦類、中国製青磁碗の破片等が出土した。

今回の調査では、古代寺院関連に関する基壇や遺構等の確認が期待されていたが、明確な寺院跡と考えられる遺構は確認できなかった。

しかし、1・2区において、中世以降に大規模な造成をして耕作地へと土地を改変した状況が確認できた。そうした造成土と耕作土から、中世の土師器や瓦器等、中世から近世までの陶磁器や瓦が出土した。

また、古墳時代の須恵器坏・甕、布目のある平瓦等の中世以前の遺物も出土しており、このことから古墳時代以降の遺構がこの周辺にある可能性も出てきた。

中世以降の大規模な造成による耕作地等の土地利用を考える上で、貴重な調査成果を得ることができた。

今回、寺院跡に関連するものとして布目瓦などの瓦類が遺物包含層などから出土したことから、近辺に寺院跡がある可能性は残された。

(田之上裕子)



2区 東壁土層断面の造成土と耕作土



2区 掘立柱建物跡1（東から）



2区全景（北西から）

入郷遺跡の発掘調査

遺跡の時代：鎌倉～室町時代
所在地：伊都郡九度山町入郷地内
調査の原因：町道 156・176 号線改良工事
調査期間：2022.01～2022.3
調査コード：21-8・005

はじめに

入郷遺跡は、伊都郡九度山町入郷にあり、紀の川に浸食された丘陵裾部に位置する。この遺跡は、南北 100 m、東西 150 m の範囲にほぼ円形に広がる。

かつて、畑地のための貯水場建設工事の際に、縄文時代頃のサヌカイト製石鏃や剥片等が採集されたことで知られる縄文土器等の出土はなく、住居跡等の遺構も確認されていない。

今回の発掘調査に先立つ確認調査の結果によって、西に突出する形で埋蔵文化財包蔵地範囲が変更された。

調査の成果

今回の調査地は、調査地西部から中央部の平坦面と東に向かって段をもって傾斜する東部の斜面地にあたり、面積 369.5㎡について調査を実施した。現況は柿畑であり、それ以前は、土層断面から水田耕作地として利用されていたことがわかった。

基本層序として、第 1・2 層が現代の水田耕作土と床土、第 3 層が細砂の混じるシルト層でマンガン粒の沈着が著しく、上面が硬化している。この第 3 層上面

が遺構面で、掘立柱建物跡、柱穴跡、カマド跡、土坑、溝、耕作溝等、中世の遺構を確認した。遺構内や遺構面上層の遺物包含層から、土師器や瓦器とともに 13～14 世紀頃の中国製青磁碗片十数点が出土している。第 4 層は地山層である。

調査区中央部で 2 間×2 間以上の掘立柱建物跡が確認され、その他、複数の柱穴跡の掘方から、完形の土師器皿や碗、灯明皿、中国製青磁碗片が出土している。

調査区西側では、土坑や落込み、溝等が重複しており、その埋土から土師器や瓦器等の中世土器が多く出土した。特に、18 土坑と 58 土坑は、平面形が長楕円形、もしくは隅丸方形を呈する遺構で、埋土の上層からは、東播系須恵器の捏鉢、滑石製石鍋、土師器皿、瓦器碗が、土坑の底部から土師質羽釜、正位置の置かれた完形の瓦器碗、土師器小皿等が出土した。13～14 世紀頃の中国製青磁碗片が出土している。これらの遺構は、16 カマド跡に近接している。

16 カマド跡は、逆 U 字状に広がる径 30cm ほどの焼成痕がある遺構で、埋土に炭片や灰を多く含んでいた。この周辺には、建物を構成するような柱穴は多くなく、露天に設置されていたものと考えられる。

入郷遺跡は、縄文時代頃のサヌカイト製石鏃等の散布地ではあったが、今回の調査で、新たに鎌倉～室町時代の集落遺構が確認され、遺構や遺物包含層から中国製青磁碗や鉢の破片が出土したことにより、一般の集落ではなく、紀の川や大和街道沿いに居住し、高野山や慈尊院との関りのある人々の集落であった可能性が出てきた。

(田之上裕子)



遺跡位置図 5. 入郷遺跡



柱穴跡掘方の灯明皿の出土状況（西から）

且来V遺跡及び且来VI遺跡の発掘調査等

遺跡の時代：弥生～奈良時代
所在地：海南省且来地内
調査の原因：秋月海南線道路改良
調査期間：2021.11.01～2021.12.17
出土遺物整理期間：2022.01～2022.03
調査コード：21-02・050、056

はじめに

且来V遺跡は、亀の川の南側に展開する弥生時代の遺物の散布地として、且来VI遺跡は弥生時代から奈良時代の集落跡として周知される遺跡であり、周囲には且来Ⅰ～Ⅳ遺跡が展開する。

且来V遺跡は、令和元年度に当センターによる発掘調査が実施され、古墳時代～古代の遺構を検出したほか、包含層から古代瓦が出土している。また、令和2年度に海南省文化財調査研究会によって当センターの調査地の東で発掘調査が行われ、円面硯が出土している。且来VI遺跡は、県道小野田内原線道路改良工事に伴って平成6・7年に海南省文化財調査研究会による発掘調査が実施されており、弥生時代から古代にかけての土坑、柱穴、建物跡が多数検出されるとともに、西側に向かって遺構面が緩やかに下がっていることが判明している。令和2年度に当センターが実施した且来VI遺跡の発掘調査においても同様の成果を得られたほか、弥生時代中期の弥生土器を出土する方形周溝墓の溝を検出している。

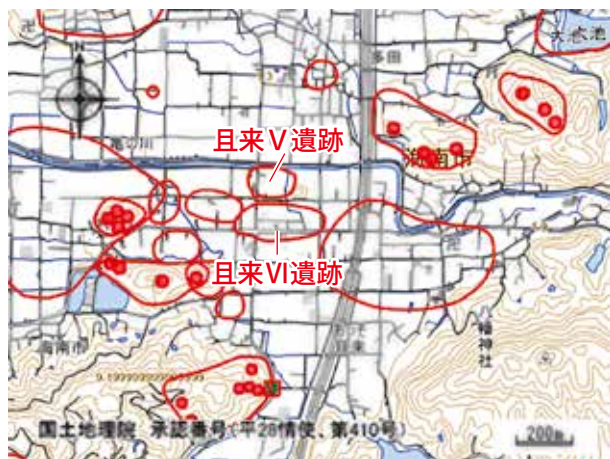


図1 遺跡位置図



且来V遺跡発掘調査風景

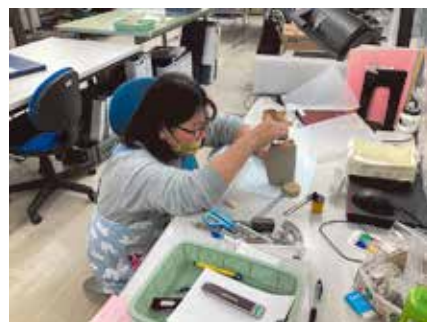
調査の成果

発掘調査は且来V遺跡部分を調査区1、且来VI部分を調査区2として実施した。調査区1・2を通して土坑、小穴、溝の遺構を検出したが、いずれの遺構も遺物が少ない、あるいは細片であり、時期を特定するのが困難なものが多い。遺構面の検出高はいずれも隣接する既往調査の検出高に近いため、且来V遺跡においては弥生時代後期～古代、且来VI遺跡においては第1遺構面が古墳時代～古代、第2遺構面が弥生時代中期～後期のものと推定できる。

且来V遺跡出土遺物等整理業務

令和元年度及び令和3年度に実施した且来V遺跡出土遺物について報告書作成のため、出土遺物整理業務を一部実施した。

対象は遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして合計7箱であり、全て応急整理を終えていたため、出土遺物の注記、接合、復元、実測とそれに伴うトレース作業を行った。また、令和元年度調査時に撮影した写真画像の整理と平・断面図、遺構断面図等の整理を行い、それらのデジタルトレースを実施し、基本層序、遺構の検討を実施した。整理業務に従事した整理補助員は延べ16名、整理作業員32名である。（濱崎範子）



出土遺物実測

小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡 の発掘調査

遺跡の時代：（小浦Ⅰ遺跡）奈良～鎌倉時代
（小浦Ⅱ遺跡）弥生時代
（小浦城跡）中世

所在地：日高郡日高町小浦地内

調査の原因：県営中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備

調査期間：2021.06～2021.09

調査コード：21-26・005、047、059

はじめに

小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡が所在する日高町は、和歌山県中央部にある日高平野の北端に位置しており、大半が山地や丘陵地となっている

小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡は（図1）は、日高郡日高町小浦に所在し、由良湾と比井浦の間に位置する。小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡は小浦湾に面する砂堆の後背湿地から丘陵裾部に位置している。現状では北に向かって上がる緩やかな傾斜地となっており、水田耕作地が広がっている。小浦城跡は小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡の東に位置する低丘陵山頂部を中心とする単郭とみられる中世の山城跡であるがこれまで発掘調査は行われておらず、詳細は不明である。



図1 遺跡位置図

5. 小浦Ⅰ遺跡 47. 小浦Ⅱ遺跡 59. 小浦城跡

調査の成果

調査は調査区1（小浦Ⅰ遺跡）と調査区2（小浦Ⅱ遺跡）で計845.7㎡を対象に実施した。なお、調査対象地内では小浦城跡の遺構は確認できなかったが、小

浦Ⅱ遺跡の包含層から中国製青磁碗の破片を確認しており、小浦城跡に関連する遺物と考えている。

基本層序は今後詳細な検討が必要であるが、概ね調査区1・2とも共通している。第1層は現代の水田耕作土、第2層は現代の水田耕作土に伴う床土である。

第3層は弥生時代～中世の遺物を含む遺物包含層で土層の形成時期は中世以降と考えられる。第4層は弥生時代から古代の遺物を含む遺物包含層。第5層は明黄褐色のシルトを多く含む基盤層である。第5層上面で、両遺跡とも遺構面を形成している。

また、調査区1・2とも遺構の残存深度が非常に浅いものが多く、全体的に遺存状況は良くない。土層の堆積状況から古代以降、調査区周辺が水田耕作地として長年使用されてきたことによると考えられる。

調査区1

調査区1は小浦Ⅰ遺跡の東側に位置する。土坑、小穴、落ち込み等の遺構を検出したが、1区で確認した遺構は出土遺物が少なく、詳細な時期の検討が現時点では困難である。遺構面精査時に第5層直上から古代の遺物が出土していることから、遺構面の年代は弥生時代後期から古代にかけてのものと考えられる。



写真1 調査区1南半部全景（南から）

調査区2

調査区2は小浦Ⅱ遺跡のほぼ中央に位置する。2区では土坑、小穴、落ち込み状遺構を確認しているが、調査区中部に遺構が集中する傾向が見て取れ、いくつかの土坑、小穴では製塩土器や漁労に使用する土錘が数多く出土している。しかし、製塩炉などの生産遺構や竪穴建物跡等が確認できなかったため、現在の小浦区の集落が形成されている小浦湾から砂堆にかけての

微高地上が遺跡の中心地であった可能性が考えられる。



写真2 調査区2 北半部全景（北から）

検出した遺構の中には埋土に多量の土器片と骨片1個を出土した土坑や土師器、製塩土器等少なくとも7個体以上が出土した土坑を確認した。

また、遺構ではないが2区南半部は水田耕作土・床土下に礫を多量に含むやや粘質の土層が1.0m以上堆積していた。3～5cm大の礫を多量に含み、シルトが多い土層が堆積していることから、土石流による堆積土層と考えられる。上下2層に分層でき、上層は第5層上に形成されているが、下層は調査区中部～南部の第5層下で広範囲において確認でき、遺構面形成以前の土石流による堆積と考えられる。



写真3 調査区2 遺構完掘状況（南東から）

小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡は、出土遺物の年代や基本層序等、これまでの既往調査及び県教育委員会の確認調査結果と一致している。今回の調査では建物跡などが確認できなかったことから、1・2区いずれも集落の中心地ではないとみられる。また、製塩土器・土錘といった生業に関わる遺物が多数出土していること



写真4 調査区2 遺構面下の氾濫堆積層



写真5 発掘作業風景

が注目されるが、製塩炉等生産に関わる遺構は今回の調査では確認できなかった。土層の堆積状況から、1・2区とも調査区周辺では水はけの悪いシルト質を多く含む土壌が広がると考えられ、生活域としての使用には向かないため、古代以降は主に水田耕作地として使用されていたと考えられる。

今回の発掘調査において、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、近世瓦、土製品（土錘）、自然木が両遺跡から出土した。特に製塩土器や土錘等がまとまって出土しており、これらは日高郡内の海浜部における製塩や漁労に関する貴重な資料と位置付けることができるため、今後の整理作業を慎重に実施する必要がある。（濱崎 範子）

新堂遺跡の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代
所在地：有田市新堂地内
調査の原因：一般国道 42 号有田海南道路建設
調査期間：2022.01～2022.03
調査コード：21-18・007

はじめに

新堂遺跡は有田川河口近くの右岸に展開する遺跡で、弥生土器の散布地として周知されていたが、発掘調査されたこともなく遺跡の性格等については明らかになっていなかった。遺跡の立地は有田川に向かって開口する小谷部で、調査区付近は小規模な扇状地形の扇端付近に位置する。このため、付近は北から南に下る地形で、階段状の屋敷地が造成されていた。付近の標高は 4.5～8.0 m を測る。

周辺の遺跡としては新堂古墳が直近の山腹に位置し、谷奥の山頂部には扁平鈕式銅鐸 2 個が入れ子状態で出土した大峯銅鐸出土地がある。また、遺跡の範囲内にある観音堂の墓地には、中世の五輪塔や宝篋印塔が多数集められており、同時期の蔵骨器も散布するなど中世に遡って墓地が存在していたことが窺える。

今回、遺跡の範囲内において一般国道 42 号有田海南道路が建設されるのに伴い、国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所の委託を受けて当センターが発掘調査を実施した。調査面積は 966.3㎡である。



遺跡の位置（和歌山県埋蔵文化財包蔵所在地図より）

調査の成果

調査区は排土置き場を確保するため 2 分割し、南側を 1 区、北側を 2 区として順次調査を行った。1 区と 2 区の間は石垣が存在し、約 1.5 m 程度の高低差が存在した。この差は近世以降の造成によるもので、中世以前は緩やかに下る地形であったと考えられる。このため、1 区・2 区とも造成によってカットされ、しかも建物基礎などの影響を受けやすい北側の中世の遺構は削平を受けており、それぞれの区で盛土が顕著な南側を中心に主な遺構を検出している。

基本的な層位は、表土・盛土下に近世の包含層があり、1 区南側を中心にその下位に中世の包含層が確認でき、直下で古代から中世の遺構面となる。2 区南側では、近世の包含層下に土石流による堆積が複雑に確認でき、中世の包含層は明確ではなかった。中世の遺構面は繰り返しあった土石流によって堆積した層位上に形成されており、一様な層位によるものでない。また、遺構面を形成する層位には弥生土器が混入していることが明らかになっている。

検出した遺構には、古代から中世にかけての柱穴・土坑・溝状遺構や近世の埋桶などがある。柱穴は多く検出しているものの、建物プランは明らかでない。

遺物は弥生土器（中期・後期）のほか須恵器・土師器・瓦器や近世陶磁器や瓦類などがある。弥生土器については、下層確認の結果、遺構を伴うものでなく、土石流とともに流されてきたものと判断できる。

今回の調査により、弥生時代中期から近世にかけて周辺で集落が営まれていたことが窺え、新堂古墳や大峯銅鐸などとの関連が注目される。（川崎 雅史）



1 区全景（上空から）

里野中山城跡第2次の発掘調査

遺跡の時代：室町時代～江戸時代
所在地：西牟婁郡すさみ町里野
調査の原因：一般国道42号すさみ串本道路建設
調査期間：2021.11
調査コード：21-41・012

はじめに

一般国道42号すさみ串本道路建設に伴い、すさみ町里野に所在する里野中山城跡が開発されるのに伴い、令和元年度に里野中山城跡の発掘調査（第1次発掘調査）が実施された。

その後、第1次発掘調査の成果を踏まえ、北隣接地の工事用道路予定地においても遺構の展開が予想されたことから、今回、第2次発掘調査が実施された。調査面積は342.1㎡である。

既往の調査

里野中山城跡は丘陵尾根部を造成して曲輪をつくり、その際に出た土を外側に盛って四周に土塁を巡らせた山城跡であることが確認された。曲輪の平面形状は台形状で、東西29.0m、南北23.0～38.0mを測る。曲輪内からは、土坑のほか柱穴などが検出された。遺物は肥前系陶器や備前焼などが出土しており、これらから16世紀後半から17世紀初頭頃に城が機能していたと考えられている。



里野中山城跡縄張り図

調査の成果

主郭北東部の土塁背後の東斜面には、堀状の窪みが確認でき、これが尾根部を切断する堀切や豎堀の一部であると評価されていた。調査の結果、東斜面の窪みの続きは確認できず、尾根続きとなる城北側の遮断施設は土塁のみであることが明らかになった。このほか、遺構としては近世以降と考えられる石段や石垣を検出している。

まとめ

今回の調査によって、北側の遮断施設が土塁のみであることが分かり、城背後の状況が明らかになった。通常、尾根部に城を築く場合、堀切で城の内外を区画することが多い。堀と土塁と併用することでより強固な遮断施設となることから、土塁のみで遮断する里野中山城跡は異例であるかもしれない。

城の東斜面は切岸によるものか急斜面であるが、西斜面は緩斜面となり、畑の開墾によりやや広めの段が造成されている。本来は腰曲輪あるいは帯曲輪が築かれていた可能性もある。城の南側は丘陵を切断するようにJR紀勢本線が敷設され、旧状は明らかでない。ただ、現地形から判断して南西部から入り込む谷の続きが、鞍部となって線路に沿うように存在し、そこに遮断施設として切岸や堀切が構築されていた可能性も考えられる。また、線路より南側の丘陵には、造成が甘い曲輪状の平坦地や堀切状の遺構が確認できる。これらの遺構の評価については、城の一部とするかどうかは里野中山城跡の位置づけにも大きく関わってくる。城の一部とした場合は、里野中山城跡が単郭式ではなく、尾根筋に曲輪を複数配する典型的な連郭式山城とすることが可能であろう。（川崎 雅史）



調査区全景（南から）

由良要塞跡の確認調査等支援

遺跡の名称：由良要塞跡
所在地：和歌山市深山地内
調査の原因：保存目的の確認調査
支援期間：2022.02～2022.03

はじめに

和歌山県内近代の文化遺産調査に伴い、和歌山県教育委員会が実施する由良要塞跡確認調査等を支援する業務を行った。支援業務は和歌山県教育委員会職員指示のもと、当文化財センターの技術職員が現場監理・写真撮影業務を、調査補助員が実測図作成を支援したほか、発掘作業員による人力掘削や伐採作業、清掃等を支援した。

調査の成果

今回の調査対象は深山第1砲台跡右翼、深山第1砲台跡左翼、男良谷砲台跡の3箇所である。発掘調査の結果、3箇所すべてで砲台の基礎を検出したが、基礎の構造がそれぞれ異なっていた。3箇所それぞれ異なる砲台が設置されていたことは史料等で明らかになっていたが、今回の成果はそれを裏付けるものとなった。

(森田真由香)



男良谷砲台跡の基礎検出状況（和歌山県教育委員会提供）

和田遺跡第4次の発掘調査支援

遺跡の名称：和田遺跡
所在地：和歌山市六十谷
調査の原因：六十谷第2浄水場更新
支援期間：2021.04～2021.07

はじめに

六十谷第2浄水場更新に伴い公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団が行う和田遺跡の記録保存目的発掘調査への技術支援業務を実施した。業務は和歌山市文化スポーツ振興財団職員の指導のもと、当センターが技術職員及び調査補助員による掘削指導、実測作業、写真撮影等の技術支援を行った。

調査の成果

1区においては、土坑約80基、小穴約1,110基、井戸6基、溝状遺構22条を検出した。遺構に伴う遺物は少ないが、包含層や遺構内から弥生時代、鎌倉時代の遺物が出土している。

2区においては、土坑・小穴等43基を検出した。1区と同様に遺構に伴う遺物は少ないが、包含層や遺構内から古墳時代終末期、平安時代後期～鎌倉時代の須恵器・土師器・瓦器等が出土した。

遺構面としては、弥生時代中期後半から鎌倉時代の遺構面及び弥生時代中期後半の遺構面の2面が認められた。第1遺構面は、複数の時代の遺構が混在していることから、遺構面の形成時期がはっきりとしない。今後の出土遺物整理等により詳細検討が必要である。

(高橋 智也)



1-1区全景（和歌山市提供）

太田・黒田遺跡第98次の発掘調査支援

遺跡の時代：太田・黒田遺跡
所在地：和歌山市太田地内
調査の原因：マンション建設
支援期間：2022.8～2022.11

はじめに

当該業務は、公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団（以下、市財団）が実施する太田・黒田遺跡第98次発掘調査の支援業務である。支援業務の内容は、市財団職員の指示のもと行った機械掘削・人力掘削、図面作成・写真撮影等の記録保存作業の支援および調査の所見・調査日誌の作成である。

調査は、調査区を4地区に分けて行った。当センターによる支援の対象は3区の一部および1区、2区である。

調査の成果

今回の調査区は、太田・黒田遺跡の縁辺部にあたる。調査の対象となる遺構面は5面で、いずれからも建物跡等は確認されなかったものの、多くの溝を検出した。

第1・2遺構面では、3区西端部でほぼ南北に延びる溝（39SD）、1区南端部で南東から北西に延びる溝（75SD）をそれぞれ検出した。39SDについて、調査区内で確認したのは溝の東肩のみだが、残存幅約1.8m、深さ1.2mを測る。また、この溝の下層から掛瓦が出土したことから、この溝が中世後半に帰属すると同時に、太田城との関連が考えられる。75SDは残

存幅約5.4m、深さ1.4mを測る。埋土の下層から瓦や青磁が出土したことから、この遺構が中世後半に帰属するとみられる。太田・黒田遺跡では、太田城の存続した時期の溝が明治時代の用水路に用いられるという特徴から、明治時代の地籍図を利用した太田城の堀の復元案が提示されている。この復元案の延長上に75SDがあることおよび75SDの出土遺物から、この溝が太田城の堀に関係がある可能性がある。

同じく第1・2遺構面で、3区の東側および1区の中央では、東西方向に延びる遺構4基を検出した。これらの遺構は、同じ場所で埋没と掘削を繰り返しており、最も新しい遺構では古墳時代～古代の土師器・須恵器、最も古い遺構では弥生土器が出土している。これらの遺構のうち、42-2SXと72SDの底部からそれぞれ幹の加工木が出土した。出土した加工木はそれぞれ皮が残存しておらず、枝が途中ないしは完全に落とされていた。

第3遺構面以下の遺構面は、弥生時代中期以前に帰属するが、これらからも複数の溝を検出した。

太田・黒田遺跡は、大規模な集落遺跡である。集落の縁辺部にあたる今回の調査区では、こうした建物跡等の集落関連遺構が確認されない一方で多数の溝が見つかり、弥生時代中期以前より水路地帯であったことが分かった。なお、第3遺構面より下の遺構面は、上面の遺構・遺物等から相対的に時期を判断していること、1～3区と4区では高低差等を原因として遺構面の高さや現れ方に違いがあることから、出土遺物を用いたより詳細な検討が必要である。

（森田真由香）



3区の第2遺構面（東から）。最西端溝が39SD（和歌山市提供）



72SDから出土した加工木（和歌山市提供）

県立考古民俗博物館建設に伴う 埋蔵文化財確認調査等の発掘調査支援

遺跡の名称：岩橋千塚古墳群、岩橋Ⅱ遺跡
所在地：和歌山市岩橋地内
調査の原因：県立考古民俗博物館建設
支援期間：2021.06～2022.03

はじめに

令和3年度県立考古民俗博物館建設に先立ち、和歌山県立紀伊風土記の丘が実施する岩橋千塚古墳群及び岩橋Ⅱ遺跡の第3～5次確認調査の支援業務を行った。なお、掘削等委託業務を付加業務として実施した。

支援の概要

確認調査は、機械掘削で表土等を掘削し、包含層において人力掘削を行い、遺構面で遺構検出を行った。

調査の各段階で図面及び写真撮影の記録類の作成を行ったのち、掘削排土で埋戻した。また、アスファルト舗装が行われている箇所においては、切断・取壊し・処分を行った。取壊したアスファルト舗装は復旧した。また、伐竹については人力で行い、周辺に集積している。

支援では技術職員が延べ57日間業務に従事し、人力掘削にあたる発掘作業員を延べ122人、実測図等作成にあたる調査補助員を延べ67人雇用した。出土遺物の応急整理等に伴い整理補助員延べ12名、整理作業員延べ48名を雇用した。

調査では、新たに古墳4基が確認され、石室内から金銅装の馬具や鉄器、耳環等が出土している。

(濱崎 範子)



実測風景

岩橋千塚古墳群寺内地区の確認調査等支援

遺跡の名称：岩橋千塚古墳群
所在地：和歌山市寺内・森小手穂
調査の原因：保存目的の確認調査
支援期間：2021.07～2022.03

はじめに

和歌山県教育委員会が実施する岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴い、指定地外の内容を把握することを目的とした確認調査等への支援を行った。平成3年度は寺内地区の寺内18号墳を対象とした。業務内容は準備作業・人力掘削・写真撮影・記録作成・応急遺物整理等の調査支援で、当センターが受託して実施した。

支援の概要

支援の内容は技術職員が延べ40日間で、人力掘削等の作業管理を行うとともに、発掘調査業務の一部の技術支援を行った。雇用した調査補助員は延べ30日と5/7日間で、実測図作成補助等の作業を行った。発掘作業は延べ158日間雇用して、木竹等の伐採や掘

削・埋戻し作業などを行った。また、整理作業員を延べ20日間雇用し、出土した遺物の洗浄作業等を行った。

調査の成果

寺内18号墳は大日山から南に派生する尾根筋に築かれた全長約29mの前方後円墳で、前方部と後円部にそれぞれ横穴式石室の主体部を持ち、埴輪を樹立する古墳として知られていた。

調査では、前方部において横穴式石室以外の埋葬施設（箱式石棺）を確認し、墳丘裾部では埴輪列や土器埋納土坑を検出した。

(川崎 雅史)



埴輪検出作業

田井遺跡、西川遺跡、堂の前西沼遺跡 の発掘調査等支援

遺跡の名称：田井遺跡、西川遺跡、堂の前西沼遺跡
所 在 地：日高郡美浜町田井・和田地内
調査の原因：津波避難施設建設
支 援 期 間：2021.05 ～ 2021.06

はじめに

美浜町の津波避難施設建設工事に先立ち、美浜町教育委員会及び和歌山県教育委員会が実施する田井遺跡、西川遺跡、堂ノ前西沼遺跡の発掘調査を支援した。

支援業務として、技術職員が延べ8日間業務に従事し、作業の内訳は準備作業が1日、現場作業が5日、実績報告書作成等作業が2日である。発掘調査の掘削等委託を受け、バックホー8日分の掘削と埋戻を行った。発掘作業員として、延べ8日分を雇用して人力掘削にあたった。また、調査補助員も8日分を雇用してして平面図・土層断面図等の実測図作成等にあたった。

業務で作成した図面等の原図は和歌山県教育委員会が保管している。

調査の成果

田井遺跡と西川遺跡は、西川左岸の沖積地に位置する。対象地内に6m×2mの調査区8箇所を設定し、第2・3層上面で中世以降から近世の耕作痕を確認した。遺物包含層から弥生土器、土師器、白磁片、瓦器等が出土したが、遺物の出土状況から別の場所で堆積したものが河川によって土砂とともに運ばれて堆積した二次堆積土に含まれるものと思われる。

(田之上裕子)



田井・西川遺跡6区 近世耕作面検出状況（南から）

荊木遺跡の発掘調査支援

遺跡の名称：荊木遺跡
所 在 地：日高郡日高町萩原
調査の原因：宅地造成
支 援 期 間：2021.06 ～ 2021.08

はじめに

宅地造成事業に先立ち、和歌山県教育委員会が実施する荊木遺跡発掘調査を支援する業務を行った。和歌山県教育委員会職員の指導のもと、機械及び人力掘削、遺構実測図作成、写真撮影、出土遺物の洗浄の支援を行った。

調査の成果

今回の調査では、複数棟の竪穴建物跡が見つかった。検出された竪穴建物跡はいずれも一部分だが、平面形が方形のものと円形のものをともに確認している。円形の竪穴建物跡は調査区南側の一か所で重複しながら

検出された。方形の竪穴建物跡は南北ないしは南北からやや東に軸を持ち、一部は炉を有していた。竪穴建物跡は、縦長で狭い調査区の至るところで重複しながら見つかり、複数の建物が繰り返し建てられていたことが窺える。遺物は主に包含層から弥生時代後期のものが多いが、竪穴建物跡などの移り変わりを見るために詳細な検討を要する。

(森田真由香)



検出した竪穴建物跡（和歌山県教育委員会提供）

上村遺跡の発掘調査支援

遺跡の名称：上村遺跡
所 在 地：西牟婁郡上富田町朝来
調査の原因：宅地造成
支 援 期 間：2021.10～2022.01

はじめに

上富田町教育委員会が実施する上村遺跡発掘調査を、当センター技術職員・調査補助員が現地において支援した。当初は道路拡幅部の調査であったが、その西側にも遺跡が展開していることが明らかになり、道路新設部分の調査も追加された。また、調査終了後には、出土遺物について遺物洗浄等の応急整理を行った。

支援の概要

支援の内訳は技術職員延べ9日間で、そのうち現地作業が8日間である。現地作業終了後には応急整理の指示を行うとともに業務内容をまとめ、完了報告書を作成した。雇用した調査補助員は延べ8日間で、実測図作成等の作業を行った。また、整理作業員は延べ4日間で、出土したコンテナ5箱の遺物について、当セ

ンター整理事務所で登録・洗浄作業を実施した。

調査の成果

遺跡は富田川の沖積平野から河岸段丘上に立地し、中世の遺物散布地として周知されていた。調査の結果、12～13世紀を中心とする柱穴・土坑・溝状遺構などを検出した。遺物では土師器・瓦器・山茶碗・中国製磁器などのほか、縄文時代の石鏃などが出土し、遺跡の内容の一端が明らかになった。（川崎 雅史）



発掘調査風景

立平遺跡の発掘調査支援

遺跡の名称：立平遺跡
所 在 地：西牟婁郡上富田町生馬
調査の原因：寄宿舍建設
支 援 期 間：2021.12

はじめに

発掘調査は県立熊野高等学校寄宿舍建設に伴うもので、和歌山県教育委員会が実施する調査を当センターが支援した。業務に際しては、当センターが必要な人員（賃金職員）を任用した。また、付加業務として、機械掘削を業者委託で実施した。

支援の概要

技術職員は延べ5.3日間で、その内訳は委託契約準備等が2日、現地調査が2日、労務管理・指示が0.3日（0.1人/日×3日）、完了報告書作成が1日である。

賃金職員は1日2人で5日間、延べ10日間を任用して、掘削作業を行うとともに実測図作成等の作業を行った。また、出土遺物が少量であったことから、調査の最終日に遺物洗浄作業を併せて実施し、遺物コン

テナ1箱に収納した。

調査の成果

立平遺跡は富田川右岸の平野部に位置し、これまで校舎の建設に伴い、縄文土器や弥生土器・須恵器・石斧などが採集されていた。調査対象地は、遺跡の北端にあって平野部と丘陵地が接する付近に位置する。調査では、時期不明の少数の柱穴や土坑・溝状遺構を検出したに留まり、遺跡の内容を十分に把握することができなかった。（川崎 雅史）



人力掘削作業

県内遺跡発掘調査等事業に伴う 確認調査支援

遺跡の名称：①慈尊院Ⅱ遺跡・慈尊院中小路地先遺跡
②岩橋千塚古墳群井辺前山地区
所 在 地：①伊都郡九度山町、②和歌山市井辺
調査の原因：試掘確認調査
支 援 期 間：2022.02～2022.03

はじめに

令和3年度に和歌山県教育委員会が実施する県内遺跡発掘調査等事業に伴い、①慈尊院Ⅱ遺跡・慈尊院中小路地先遺跡、②岩橋千塚古墳群井辺前山地区の試掘確認調査について実施した。

支援業務では、発掘作業員については①10人、②2人の計12人、調査補助員については①17人を雇用し、技術職員が延べ7日間従事した。現場支援では、人力掘削作業の管理・指揮等の作業を行った。

調査の成果

①慈尊院Ⅱ遺跡・慈尊院中小路地先遺跡は、九度山

町に所在し、紀の川左岸段丘の丘陵端部と紀の川の河川敷に位置する。昨年度から試掘確認調査・分布調査を行なわれており、石積護岸遺構、水制遺構及び堤防遺構を確認したが、今年度の試掘確認調査でも同様の遺構を確認し調査を実施した。

②岩橋千塚古墳群井辺前山地区は和歌山市に所在し、岩橋丘陵の南斜面の西側に位置する、古墳時代の群集墳である。試掘確認調査を実施したが、当該時期の遺構・遺物は確認されなかった。（田之上裕子）



慈尊院Ⅱ遺跡 石積護岸遺構の実測風景

新宮城下町遺跡の出土遺物等整理支援（3）

遺跡の名称：新宮城下町遺跡（新宮下本町遺跡）
所 在 地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
支 援 期 間：2021.04～2022.01
調査コード：15-43・043 16-43・043

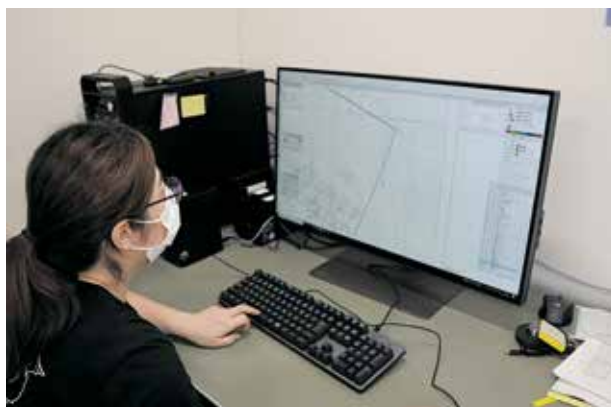
はじめに

当該業務は、新宮市文化複合施設建設に先立って調査された第1次発掘調査のうち、現状保存されることになった東側大半と試掘調査・確認調査の内容を含め、新宮市が総合的な調査報告書を作成するための支援業務として実施したものである。

なお、報告書は国史跡指定を目的として、考古学の成果だけではなく、中世の海上交通史や熊野三山の動向に詳しい専門家の意見を広く掲載した学際的なもので、その刊行については新宮市教育委員会が当たった。また、調査時の遺跡名は新宮城下町遺跡であったが、報告書刊行時に新宮下本町遺跡に変更された。

整理作業

対象とした出土遺物は、遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして165箱で、その内容は土器類・瓦類・石製品・金属製品などである。業務は令和元年度・2年度に引き続き実施したもので、令和3年度の作業は組版・原稿執筆・編集・校正作業などで、作成した内容は報告書原稿として新宮市教育委員会に提出した。また、扱った出土遺物については、報告書掲載・実測済み遺物及びその他の遺物に分けてコンテナに再収納して、新宮市教育委員会に移管した。（川崎 雅史）



遺構図の組版作業

重要文化財 闘雞神社本殿ほか3棟 の保存修理

建築年代：江戸前期～中期
所在地：田辺市東陽
事業の種類：本殿(本社)・上殿(若殿) 半解体修理、
西殿(西御前)・八百萬殿(満山社) 部分修理
事業期間：2020.06～2022.12

神社の沿革と建物の概要

田辺市の闘雞神社は、允恭天皇の御代（西暦419年）に、龍神の信仰を元にした祭祀の場所として開かれ、千六百年の歴史を有する。平安時代後期に熊野坐神社（現・本宮大社）より熊野三所権現を勧請し、以降「新熊野権現社」と称される。源平合戦の折には鶏合神事によって源氏方へ味方したという故事から「鶏合権現社」「鶏合宮」「闘雞宮」などとも呼ばれて来た。明治初年の神仏分離により現在の社名となる。

仮庵山の南麓に北面して東西一列に社殿6棟が並び建つ姿は、本宮大社の近世期以前の構成を今に伝える。境内は室町時代と天正年間に2度荒廃するが、紀州藩付家老・安藤家のもと、万治元（1658）年に上殿、寛文元（1661）年に本殿が再建され、以降80余年をかけて現在の社殿群が整うことになる。

本殿は無節のケヤキ材をふんだんに用い、正面の墓股内彫刻には安藤家の家紋「下り藤」を配して、領主寄進の建物であることがうかがえる。一方で氏子によって再建された上殿は、「龍（神）」「鶏合せ」「源頼政の鶴（ぬえ）退治」といった、当社の由緒にまつわる題材が墓股内彫刻に集められており、当時の信仰の実態が垣間見える部分でもある。



地元住民への工事進捗・調査内容報告会の様子



軒・小屋組復旧中の本殿（小屋梁・地棟を新調）

事業の経過

今回の事業では、本殿・上殿での軒・小屋組以上の解体修理を中心に、西殿と八百萬殿での木部修理も加えて、令和2年度から3か年度にわたる保存修理工事を進めて来ている。当事業においてセンターは、工事の技術指導業務を担当した。

2か年度目の本年度は、前半は軸組の歪みや傾きを修整し、前年度に分解した木部の修繕や取替え作業を、後半は檜皮屋根の葺き直し、棟まわり・基礎まわりの補修と、西殿・八百萬殿の木部修理を行い、続いて塗装・彩色修理も進めた。また、本殿・上殿の耐震診断に伴う軸組強化策も両殿の木部修理へと加味した。

前年度の調査によって得られた本殿と上殿の塗装・彩色の修理方針に関しては、文化庁の指導のもと今回修理でその全面的な整備に向けて、氏子ほか地元住民への周知・理解を伴ったうえでの計画変更を経て、江戸時代後期の様相をめざす運びとなった。その施工に伴い、事業期間を3か月延長した。

次年度には、継続して塗装・彩色修理を行った後、9月の竣工に向けて素屋根等仮設物の解体や防蟻工事などの施工を行う予定である。（下津健太朗）



檜皮屋根葺き直し後の本殿と上殿（手前）

重要文化財 金剛峯寺奥院経蔵 の保存修理

建築年代：慶長4年（1599）
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2020.06～2022.12

高野山の奥之院で令和2年度から実施している経蔵修理事業の2か年度目にあたり、建立当初の彩色が残る建物内部の剥落止め作業、小屋組の補修と檜皮屋根の葺き替えを実施した。

経蔵内壁には桃山時代の絵師の息づかいが聞こえるような躍動感溢れる羅漢図が描かれている。また内部中心に据えられている回転式の輪蔵は、独立した建物のように組物や軒が設けられており、彫刻や極彩色で彩られている。これらの彩色は、昭和53年の半解体修理時に剥落止めや補筆などが施されていたが、ふたたび彩色面の層状剥離や粉状化などが目立ってきたほか、埃などによる汚れやカビも認められたので、今回の屋根工事にあわせて、清浄と剥落止めを進めている。

本事業は、苔むして腐朽が顕著となっていた檜皮屋根の葺き替えを主眼として計画されたが、振動を伴う工事となるため、先行して彩色面の不安定な部分の剥落止めの施工を進めた。施工に伴い彩色面の状況を精査したところ、輪蔵の塗装面全体で劣化が進んでいることが確認されたため、施工範囲や工程を見直し、工期の延長を含めた計画変更申請を行い、文化庁の承認を得た上で施工を進めた。

剥落止めは、内壁の羅漢図を先行して実施し、完了後引き続き輪蔵の腰組や柱の要所を施工した上で内部

足場を組み立て、軒廻りや組物廻りの脆弱な塗装面の仮止めを行い、屋根工事に耐えうる強度を確保した上で、本年度分の施工を完了した。

施工に伴い、カビの発生や過去の剥落止めで使用された合成樹脂に起因する彩色面の破損などが認められたため、東京文化財研究所の専門家を招聘し、適切な対応を行うため、継続的な指導を受けている。



小屋組の修理状況

屋根工事において、現状の檜皮屋根を解体したところ、野地の小舞は完全に腐朽した状態であり、野垂木、野隅木も全材取り替え、母屋桁や母屋束も過半を取り替える必要がある重篤な破損状況であった。

修理後適切に建物を維持していくことが出来るよう小屋組の取り替え材には赤身材を用いた上で防腐剤を塗布した。また露盤は、檜皮材の品軒に直接載せられていたため傾斜し、雨漏れを起こしていたため、品軒上部を板材で補強し、銅板で被覆して据え直した。

屋根工事完了後素屋根を解体し、奥之院に本来の荘厳な景観が戻った。令和4年度には引き続き建物内部で彩色の剥落止めを実施する予定である。

（多井 忠嗣）



東京文化財研究所専門家による現地調査



屋根工事の完成

国指定史跡 旧名手宿本陣整備事業 名手役所主屋及び離れ・蔵復旧整備 その3工事

建築年代：主屋 延享3年頃、天保4年増築
離れ・蔵 江戸後期
所在地：紀の川市名手市場
事業の種類：復旧整備
事業期間：2021.04～2023.03

事業の概要

国指定史跡旧名手宿本陣は名手市場の旧大和街道沿いに位置する。敷地には南側に重要文化財指定されている旧名手本陣味噌家住宅主屋、米蔵、南倉が建ち、北側は現在、復旧整備を進めている名手役所の主屋と離れ・蔵が並ぶ屋敷構えになっている。名手役所の建物は、借家から無住となってから傷みが進んでいたため、平成9年に那賀町（現：紀の川市）により、復旧を前提に一旦分解され、部材は仮設倉庫に保管されていた。その後、平成29年度に国庫補助事業として、復旧整備を進めている。

名手役所は、史料では延宝3年（1675）年に存在していたようだが、正徳4年（1714）の火災で類焼し、延享3年（1746）頃に主屋が再建された。主屋はその後に部分的な改変を受けて天保4年（1833）に復旧を目指している姿となった。離れ・蔵の建築年代は明らかになっていないが、江戸後期頃に建てられたと推定されている。

保存修理の内容

整備事業は令和元年度より復旧工事に着手し、離れ・蔵から復旧を行い、令和2年度で組立作業を完了した。現在は、主屋の復旧作業に取りかかり、木部の繕い補修や組み立て作業を行っている。



再用材補修状況



木部組立状況

主屋の軸部組立時には、再用柱と礎石の高さが合致せず調整の必要があった。全ての柱下面を確認すると、礎石に接するこの面に、石の表面に合わせて柱の下面を削る「ひかりつけ」が認められず、柱下面がほぼ真っ平らな加工面となっていた。納まりに不具合が生じている要因として、建立後に柱を切り縮めた影響があることを留意し、基準となる高さを決定した。木工事は古材繕い、新材加工、組立の作業を行い、現在、造作部材の加工を進めている。

壁面には伝統的な下地の代わりに荒壁パネル、構造用合板を設置し、耐震性の確保も行い将来的に見学・展示施設として活用することを見込んだ設計としている。屋根工事の瓦材は保管されていたものを可能な限り再用し、補足瓦については残存している瓦の特徴を留意して制作を行った。

今後の予定

次年度には主屋において屋根工事の瓦屋根葺き上げ、左官工事の内外の中塗り仕上げ、建具の補修・制作、建て込みのほか、畳工事、土間たたきを行い、電気配線や自動火災報知設備の設置などの事業を実施し、令和5年3月の事業完了を目指す。（大給 友樹）



屋根下地小舞掻き状況

県指定文化財 須賀神社本殿の保存修理

建築年代：江戸時代（享保4～6年）
所在地：日高郡みなべ町西本庄
事業の種類：屋根葺替修理、塗装修理、部分修理
事業期間：2021.04～2023.02

神社の沿革と建物の概要

みなべ町（旧・南部川村）西本庄にある須賀神社は、平安時代、一条天皇の御代に京都・八坂神社から祇園の宮を勧請し、南部荘の総鎮守としたのを創建と伝える古社である。本殿は、境内北西の一段高くされた場所に、同規模・同形式の社殿3棟が横並びに建ち、東から第一殿、第二殿、第三殿として、各殿には素戔鳴尊、櫛稲田姫命、八柱御子神を主祭神として祀る。

須賀神社本殿は、各殿とも一間社・隅木入り春日造・檜皮葺の建物である。紀南地方における江戸時代中頃の本殿建築の特色をよく伝える建物として、昭和43年には和歌山県の文化財に指定されている。今回の修理中に第一殿の小屋内において確認された墨書紀年と、神社で保管される第二殿・第三殿の再建時棟札から、享保4年（1719）に第一殿、翌5年に第二殿、翌6年に第三殿、と建立年代も明らかとなった。細部意匠や塗装の配色等においても、近隣にある江戸時代の建造物と共通点を有している。

事業の概要と保存修理工事の経過

今回の事業は、令和3年度からの2か年計画で、県指定文化財の社殿3棟の屋根葺替・塗装修理を中心と



檜皮屋根・箱棟修理後の第一殿（手前）と第二殿

した保存修理工事を行う。事業においてセンターは、工事の技術指導業務を担当している。

本年度は、第一殿と第二殿の2棟で、軒・小屋組等の木部補修、檜皮屋根の軒付補修と平葺替え、彩色部の剥落止め・補彩、単色塗装の塗り直し等を行った。

現本殿は、化粧部分に加えて小屋組や小舞野地なども再建以来のすがたをよく留めており、今回の補修でもその維持・踏襲に留意しながら施工を進めている。塗装および彩色は、明治39年に塗り替え・描き直された現状を補修した。箱棟下地は、大正9年の新調材を昭和11年に銅板包みへ改めた際に再用された状態にあり、かつては黒色仕上げ・飾り金具付きの様相であったことも確認できたため、計画変更を経て、新調した銅板包みの表面を黒色塗装に仕上げ、往時のすがたに近付ける整備施工を実施した。

次年度は、塗装工事までをほぼ終えた第一殿・第二殿で飾り金具を復旧した後、素屋根を解体し、続いて第三殿の施工に取り掛かる。本体の工事は年内の完了をめざし、並行して自動火災報置の設置工事を行う予定である。（下津健太郎）



彩色部剥落止め後の第二殿



彩色部補彩・単色塗装塗り直し後の第二殿

県指定文化財 木ノ本八幡神社本殿 の保存修理

建築年代：元和5年（1619）
所在地：和歌山市西庄
事業の種類：屋根葺替、部分修理
事業期間：2020.11～2021.12

建物の概要

木ノ本八幡神社は和歌山市の北西部に位置し、和泉山脈のほぼ西端部にある巖櫃山の中腹に所在する。

社記によると文明4年（1472）造営の本殿が、天正13年（1585）の兵火により、宝物類とともに焼失し、その後の慶長8年（1603）に仮本殿を建て、元和5年（1619）頃に現在の本殿を再建している。

本殿は三間社流造で、屋根を檜皮で葺いている。修理の記録が残っている小屋組と軒まわり、浜縁以外は、当初の部材をよく残しており、建立後には軸部に及ぶ修理が実施されていないものと見受けられる。

寛文9年（1669）、寛政4年（1792）、文政4年（1821）、弘化3年（1846）、明治19年（1886）、明治39年（1906）、昭和26年（1951）などに檜皮屋根の葺替を行っている。墨書（本殿の墓股や脇障子彫刻に元和5年の記述）や社記と考え併せると、元和4年から元和5年（1619）頃に造営され、建物の形式、技法もその年代の特徴と一致する。県下の建築史編年の基準作例として重要であると認められ、昭和49年に和歌山県指定文化財となった。指定後の修理では、昭和50年、平成9年度に屋根葺替工事を行い、平成23年度に建物の傾斜補正と木部の部分修理を行っている。



屋根の修理前破損状況



屋根工事完了状況（東からみる）

保存修理の内容

今回の事業では、令和2年度から3年度までの2ヶ年度で本殿の屋根葺替と部分修理を実施している。令和2年度は仮設工事と木・建具工事を行い、主に内外陣境で過去の蟻害により、納まりに不具合が生じている木部の修理と床下の補強、格子戸の補修を施工した。造作材においては矧木や埋木補修を施し、床組については解体せずに補修を行う方針であるため、根太に添木による補強を行い、今後も荷重に耐えうるように対処した。

屋根の檜皮葺は前回の葺き替えから20年以上経過し、平葺の摩耗が進んだ部分で小動物が穴をあけ、軒付の腐朽も進行していた。平葺は全面を葺き替え、軒付は腐朽していた部分を積み替えた。屋根葺替が完了した後、箱棟木部の破損箇所の補修と箔押し補修をした飾り金具の取り付けを行った。

修理に際して、氏子の皆様に本殿の秀逸な建築彫刻のもつ魅力とともに、作業状況について説明を行った。本事業を契機として、地域の文化財を後世に伝える機運が高まっていくことがあれば幸いである。

（大給 友樹）



木部破損の修理状況（内外陣境）

県名勝 藤崎弁天堂保存修理

建築年代：江戸中期
所在地：紀の川市藤崎
事業の種類：半解体修理
事業期間：2020.04～2022.03

令和2年度から2か年をかけて根本的な修理工事を実施していた藤崎弁天堂において、全ての工事が完了した。令和3年度には、軒や小屋組み、造作類の新材加工や組立を行ったほか、瓦の補修や新調・葺き上げ、建具の新調・建て込み、亀腹の漆喰塗りなどを施工した。

平成30年度からの一連の事業において発見された史料により、弁天堂は隣接する藤崎井堰が紀州藩によって整備された時期に建立、その後幕末期に琴の名手・古岳幽真によって改修が行われ、近年においては昭和50年ころに瓦屋根の葺き替えや、向拝、縁廻り、建具等大規模な改変が行われてきたことが判明した。

今回の修理では、県指定名勝としての価値付けに準じ、万延元年（1860）年の姿に復すべく整備した。後世に改変されていた部分については古写真や部材に残る痕跡、類例などに基づき、根拠を持って復原した。

瓦屋根は、外観上最も印象が変わる変更となったが、昭和38年に撮影された写真を元に復原した。保管されていた鬼瓦や鯨の古材が写真と合致したほか、棧瓦で葺かれていた屋根面には本瓦が葺かれていたこと、

大棟や隅棟には輪違い瓦による装飾が施されるなど、粉河寺や紀の川市内の民家にも認められる地域性豊かな特徴を持つ屋根に復することが出来た。

木部は、柱や身舎軒廻りには建立当初の主要な材が残り、外観の姿は概ね保たれていたが、足元が切断されていたり、向拝の軒や縁が外材に、天井や床板が合板に張り替えられたりしていた。

天井は解体工事に伴う調査で、内法長押の内部からオリジナルの天井板の断片を発見できたことにより、杉の柂目材を継いで作った板の木目を、格縁に対して45度傾けて張る、という高野山の客殿などに類例が認められる特徴的な仕様に復することが出来た。

床板も万延に増設された脇仏壇の下に建立時の床板が残されており、壁板と同仕様の巾60cm近い楠の板が用いられる、他県ではあまり類例のない姿に復旧することが出来た。

木部と同様に、建具も大正、昭和に改変されており、正面は棧唐戸に、西面はベニヤ板で塞がれていたが、鴨居や敷居、柱に残る痕跡から、正面は蔀戸、西面は片引き戸と明かり障子に復旧した。

この他、コンクリートで固められていた亀腹を漆喰に復し、縁は古岳庵との渡り廊下が配されていた時代の姿に整備した。

弁天堂に祀られる弁財天は、水の神であるとともに、音楽の神でもあり、建物の来歴と深く関係している。今回復原した蔀戸は跳ね上げ式の扉であり、開いた建具は金具で吊り込む。この様子が大棟の鬼瓦や輪違いによる波の模様とあいまった、建物本来の流麗な姿に復することが出来た。（多井 忠嗣）



蔀戸を開けた正側面全景



復原した天井 天井板が斜め張られている

重要文化財 増田家住宅表門の保存修理

建築年代：宝永3年(1706)
所在地：岩出市曾屋
事業の種類：部分修理・耐震診断
事業期間：2021.11～2022.10

岩出市の紀ノ川と紀伊山脈に挟まれた平地に位置する増田家住宅には、山崎組大庄屋としての屋敷構えが残り、主屋と表門が重要文化財に指定されている。

昭和61年に根本的な修理が行われたため、各建物は全体に健全な状態であるが、漆喰が崩落するなどの破損が目立ってきた表門のナマコ壁の修理とあわせ、建物の地震に対する性能の解析と、必要に応じた補強工事を実施する予定としている。

ナマコ壁は、土壁の上に正方形の瓦を四半に取り付け、目地を漆喰で塗り固めた瓦の黒と漆喰の白のコントラストが特徴的な壁であり、総巾27mに及ぶ壮大な表門の正側に施された様子は、江戸時代の大庄屋の表門としての豪壮さを今に伝える。

令和3年度には、瓦から浮き上がってしまった漆喰の解体後、瓦のズレの補正を行うとともに、修理後の安定を図るために、必要な部分には金具を用いて補強を施した。

修理工事と並行し、建物の架構の詳細な実測調査や地盤調査、常時微動の測定などを実施した上で構造解析を行い、建物を後世に伝え、安全に使い続けるための補強計画を進めている。(多井 忠嗣)



ナマコ壁の漆喰の解体状況

国指定名勝 和歌の浦観海閣整備の基本設計

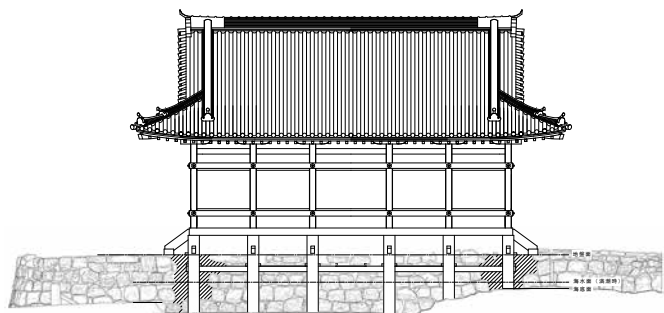
建築年代：新築
所在地：和歌山市和歌浦中
事業の種類：基本設計
事業期間：2021.04～2021.12

名勝 和歌の浦の妹背山に位置し、景観の大きな構成要素でもあった観海閣を整備するための基本設計を令和2年度から継続して実施し、完了した。

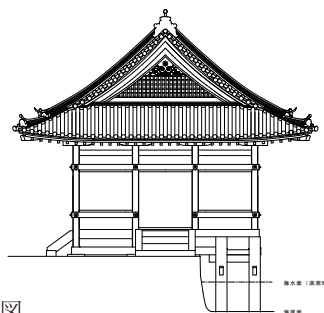
今回整備する建物は、徳川頼宣が建てた建物が万延期に被災して倒壊した後、慶応3年に再建された建物の姿を復する方針とした。この建物は昭和38年に第2室戸台風で倒壊するまで観光スポットとして親しまれたため、絵はがき等古写真資料が多数残る。また地元の写真家が継続的に撮影した写真の提供も受け、細部や木材の樹種の特定など復元的な設計の根拠とした。

現地に保管されていた石階段などの古材のほか、海中に立つ石柱や、懸魚、鬼瓦の古材も確認され、実測調査を行い、復元する建物の寸法の指標とした。

並行し、作成した基本図を元に耐震・耐風診断を実施し、公共施設として適正な補強計画を立てるための資料を整えた。(多井 忠嗣)



正面（東面）図



側面（南面）図

県指定史跡 中世行幸啓御泊所跡の保存活用整備（尊勝院表門の保存修理工事）

建築年代：江戸時代
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
事業の種類：屋根葺替修理、部分修理
事業期間：2021.11～2022.06

建物と事業の概要

那智山青岸渡寺の境内にある尊勝院は、かつて飛瀧権現（那智の滝）を管理していた那智山執行職が代々住した僧坊と伝えられ、上皇・皇族の熊野参詣時には御泊所も兼ねられた。境内は昭和33年に和歌山県の史跡に指定されている。表門は、境内の南側に基壇を構えて建つ、平唐門形式の四脚門で、西側に袖塀、東側には脇門を接続する。

本事業は、県史跡の保存活用整備事業として、前年度の基本設計を経て本年度からの2か年計画で、表門と袖塀・脇門の檜皮屋根の葺替修理を中心に、腐朽・蟻害等の経年で破損した木部等の補修を行う。本年度は、素屋根の建設、軒・小屋組・野地・鬼板下地等の木部補修と進めて、檜皮屋根は軒付の積直しと平葺きを行い、並行して棧唐戸の分解修理までを実施した。

修理中には、解体・分解範囲において仕様・痕跡等の調査を行い、小屋内に保管される棟札と合わせて、江戸時代後期以降の修理履歴を確認・整理した。昭和33年には軸組補修、切裏甲取替えのほか小屋組の改修も受けたなかで、野垂木は当初材が再利用されていた。今回修理では当初材の脇へ添え足した新材で野地を受けながら、再用・存置にも努めている。（下津健太郎）



檜皮葺き直し後の表門屋根（南東から見る）

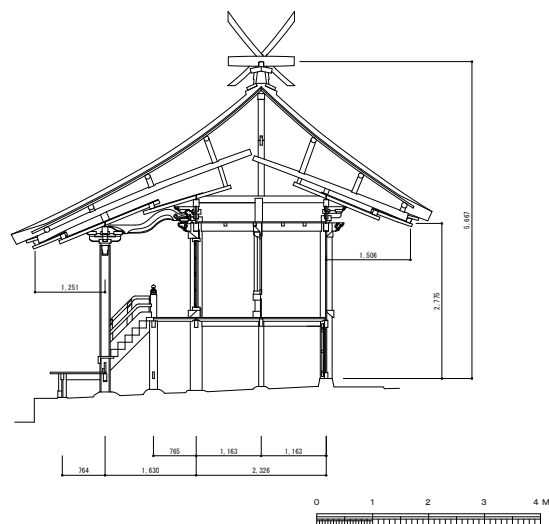
指定文化財図面作成業務

所在地：和歌山県内
事業の種類：図面作成
事業期間：2021.09～2022.03

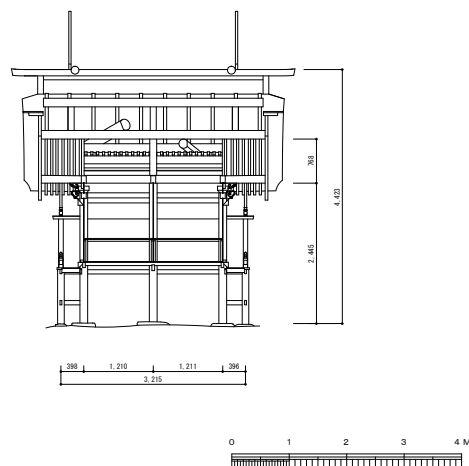
事業の概要

前年度と同様に、基本図面のない重要文化財、県指定文化財の建造物について、県が作成する文化財総合データベースに登録するための図面を現地調査で実測したうえで、製図する業務を行った。

主な図面作成現場として、今年度は県指定文化財の木ノ本八幡神社本殿や宝来山神社末社東殿など33棟の建造物を中心に作図した。（大給友樹）



県指定文化財 木ノ本八幡神社 梁間断面図



県指定文化財 宝来山神社末社東殿 桁行断面図

且来V遺跡及び且来VI遺跡発掘調査から考える土地利用について

1. はじめに

令和元年度から令和4年度にかけて、秋月海南線道路改良事業に伴い且来V遺跡及び且来VI遺跡の発掘調査及びその出土遺物整理業務を当センターが受託して実施中である。且来V遺跡及び且来VI遺跡についてはこれまでも発掘調査が実施されており、その調査成果については報告書にまとめられている。

近年、当センターが実施した発掘調査により、これまで検討されてこなかった事項も明らかとなってい

る。本稿では、海南市且来周辺の条里地割について、且来V遺跡及び且来VI遺跡の発掘調査から述べるとともに、その成立時期について述べたい。

2. 既往調査

且来V遺跡及び且来VI遺跡は、海南市且来に所在する遺跡であり、いずれも亀の川の流れによって形成された扇状地上に位置する。埋蔵文化財包蔵地範囲は、且来V遺跡は東西約180m、南北約100mに、且来VI遺跡は東西約320m、南北約270mに広がる。埋蔵文化財包蔵地所在地図では、隣接して且来I遺跡(46)～且来VI遺跡(56)に区分されているが、本来は東側の亀川遺跡(21)と西側の岡村遺跡(19)の

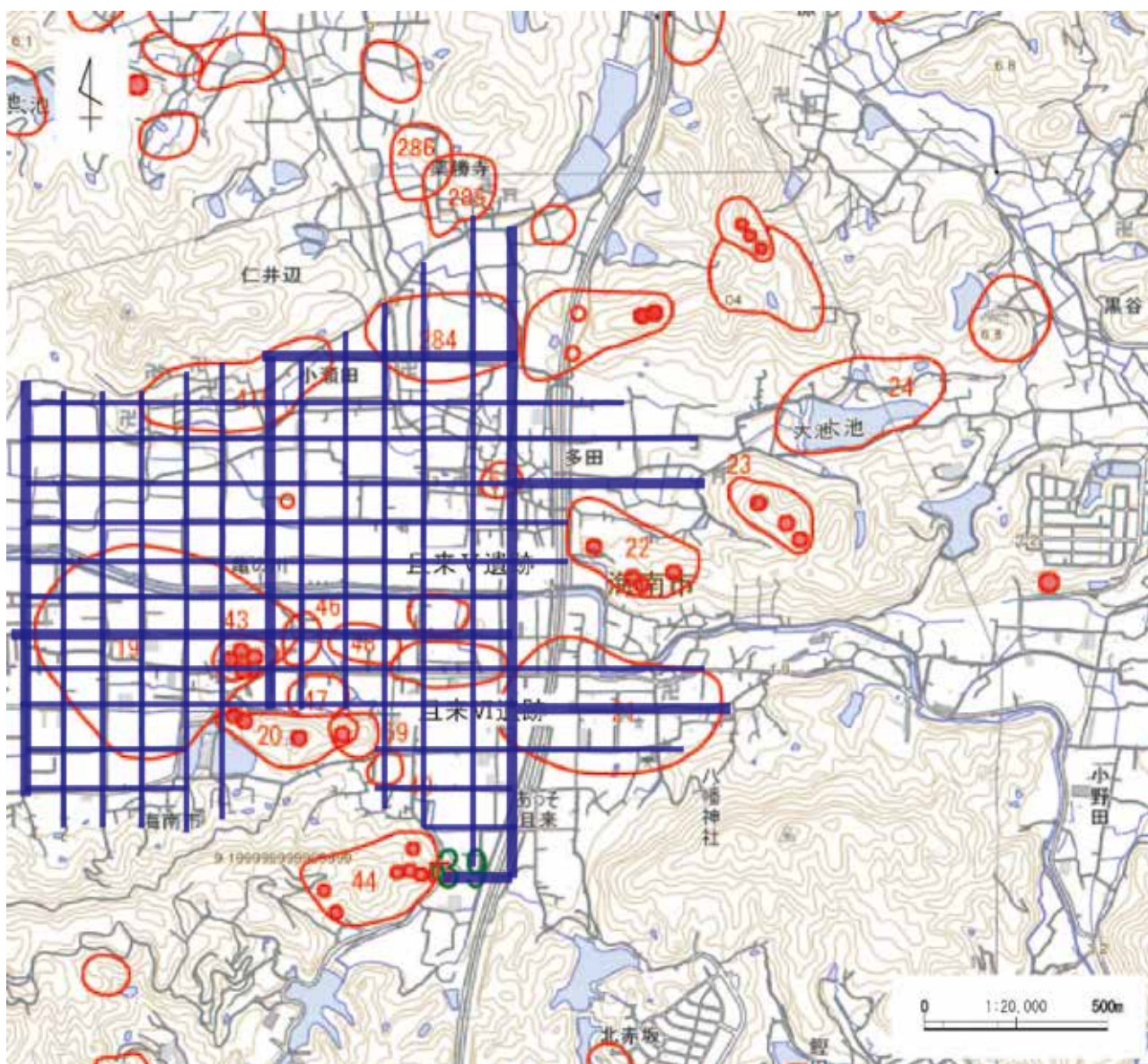


図1 海南市且来周辺の埋蔵文化財包蔵地所在地図

※青色のラインは且来周辺の復元された条里地割案



図2 且来V遺跡及び且来VI遺跡既往調査位置図

間に展開する一体的な遺跡と考える。且来V遺跡は、亀の川の南側に展開する弥生時代の遺物の散布地として、且来VI遺跡は弥生時代から奈良時代の集落跡として周知される遺跡であり、周囲には且来Ⅰ～Ⅳ遺跡が展開する。

且来V遺跡は、平成2年度に海南市教育委員会によって宅地造成に伴う発掘調査が実施され、中世の遺構や包含層から石包丁が出土している。また、令和元年度には当センターによる秋月海南線道路改良工事に伴う本発掘調査が実施され、古墳時代～古代の遺構を検出したほか、包含層からは古代瓦が出土している。令和2年度には海南市文化財調査研究会によって当センターの調査地の東側で発掘調査が行われ、円面硯の出土や亀の川のものと見られる氾濫堆積が確認されている。

且来VI遺跡は、県道小野田内原線道路改良工事に伴って平成6・7年に海南市文化財調査研究会による発掘調査が実施されており、弥生時代から古代にかけての土坑、柱穴、建物跡が多数検出され、西側に向かって遺構面が緩やかに下がっていることが判明している。令和2年度に当センターが実施した且来VI遺跡の

発掘調査においても同様の成果を得られたほか、弥生時代中期の弥生土器が出土する方形周溝墓の溝を検出している。特に当センターが実施した発掘調査の成果については当センター発行「年報2019」「年報2020」にそれぞれ記載している。

且来V遺跡及び且来VI遺跡で確認した掘立柱建物15棟からなる建物群、複数出土した円面硯、古代瓦から、何らかの公的機関が存在していた可能性が高いと考えられる。

また、海南市且来周辺は、平安時代初期に編纂された日本最古の仏教説話集である『日本国現報善惡靈異記』（以下、『日本霊異記』とする）中巻32「寺の息利の酒をおきのり用ゐて、償はずして死に、牛と作りて役はれ、償を償ひし縁」の舞台とされている。話中に語られる「薬王寺」は、周辺から古代瓦が表採されている現在の埋蔵文化財包蔵地所在地図の薬勝寺跡（285）、薬勝寺遺跡（286）の可能性が高い。表採された軒丸瓦は伊都郡佐野廃寺及び有田郡田殿廃寺で出土している瓦との関連性が指摘されている。

3. 且来V遺跡及び且来VI遺跡の発掘調査成果

検出した遺構の年代及びその性格については、現在整理作業中のため、今回は遺構が掘り込まれた年代以降、遺跡周辺がどのような土地利用をされたのかについて、現状での考えをまとめておきたい。

令和元年度の且来V遺跡発掘調査において、確認した土層断面図を模式図にしたものが図3である。

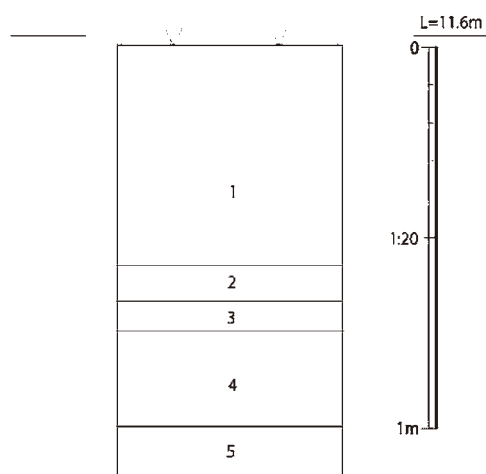


図3 且来V遺跡基本層序

第1層は現状の道路造成土、第2・3層は造成前の水田耕作土及びその床土である。第4層は大きく上下層に分類でき、鉄分やマンガン粒の沈着状況から更に細分化できる。いずれも水田耕作土とみられる。弥生時代中期～古墳時代、奈良時代～鎌倉時代の遺物を含む遺物包含層でもある。第5層上面に古墳時代～古代の遺構が掘り込まれており、第5層下は亀の川の氾濫堆積とみられる砂礫層が厚く堆積している（写真1）。

第5層から掘り込まれる遺構の遺存状況は悪く、遺構面が形成された古墳時代～古代以降においても且来



写真1 且来V遺跡北壁断面（南から）

V遺跡周辺は亀の川の氾濫の影響が極めて強かったと考えられる。この亀の川の氾濫の影響は、当センターの発掘調査以外に、令和2年度に実施された海南市教育委員会の調査においても指摘されている。

また、且来V遺跡南端部では、古墳時代までの低湿地帯とみられるグライ化の進んだ土層の上に別の土を用いて人為的に埋め立て、水田耕作土とした痕跡を確認している（写真2）



写真2 且来V遺跡東壁（西から）

且来V遺跡南端部を埋め立てた土層は第4層の一部である。この第4層は出土遺物に少数の弥生土器や土師器、須恵器、瓦器、束播系須恵器を含む。

且来V遺跡の中央部と南端部の土層堆積状況と出土遺物を検討した結果、遺構が掘り込まれる古墳時代～古代においては亀の川の氾濫の影響を強く受ける不安定な土地であったが、古代以降には亀の川の氾濫の影響が少なくなり、水田耕作に適しない低湿地帯は周辺の地山などを削平し、その土で埋め立てるなど大規模な土地改変を行ったと考えられる。

且来VI遺跡については、令和2年度の調査区中央部～南部においては遺構面の残存状況がよく、遺構面下にも砂礫層の堆積が見られないことから亀の川の氾濫の影響が及ばなかったことが伺える。一方で中央～北部に顕著な亀の川の氾濫堆積が認められ、且来V遺跡とほぼ同様の状況であったことが伺える。また、且来V遺跡と同様、低地部に第5層を削平した土層で埋め立てた痕跡が確認できた（写真3）。この土木作業がいつ実施されたかについては、詳細については出土遺物が少なく、また現在出土遺物整理業務を実施中のため不明であるが、現状としては中世以降と考える。



写真3 令和2年度調査且来VI遺跡中央部東壁（西から）

4. 文献に見る条里地割とその成立時期について

海南市且来周辺は新興住宅地や商店の広がりにより、かつての風景を急速に失いつつあるものの、昭和36年に国土地理院が撮影した航空写真を確認すると、水田耕作地が亀の川北・南岸に広がっていることがわかる。これらの航空写真及び和歌山市・海南市の地籍図、現地の字名から1町（109 m）の条里地割が復元されている（図1）が、この復元にはやや問題があることも指摘されている（注1）。しかし、復元された条里地割の北西に位置する『薬王寺文書』の中に条里に関連する地名が記載されているものが治安3年（1023）、治暦3年（1067）の2文書残っている。これらによって、11世紀には且来周辺の条里地割が成立していたことが古文書から確認することができる。

一方で、且来周辺の条里地割がいつ成立したのかについてはこれまであまり検討されていないが、伊太祁曾神社周辺の条里制成立と同時期と考え、古代にさかのぼりうる、ということが漠然と考えられてきた。

今回の発掘調査成果から、遺跡北に位置する亀の川の氾濫は平安時代以降に落ち着き、以降は水田耕作地として土地利用されてきたことが明らかとなっている。また、大規模な土地改良の痕跡が且来V遺跡、且来VI遺跡両方で見られている。この土地改良が実施された時期については、更に詳細な検討が必要であるが、おおむね平安時代後期～鎌倉時代と推定できる。

文献資料と発掘調査成果を総合して検討すると、11世紀以前に且来周辺の条里地割が成立し、その後水田耕作地拡大のための大規模な土地改良が実施されたと考えられる。

5. まとめ

以上、且来周辺の文献資料と発掘調査成果から条里地割の成立について検討した。上記の土地改良は且来V遺跡周辺と且来VI遺跡周辺で時期差があると考えられるが、この土地改良がどのような勢力を背景として実施されたものかは不明のままである。

今後、検出した遺構の詳細な年代の検討と並行し、平安時代以降の土地利用やその背景についても検討する必要があるだろう。

注1 条里地割の復元案については米倉二郎の研究（1936「紀伊に於ける班田の遺構」『内外研究』10巻3～6合併号）をもとに『海南市史第1巻 通史編』で字名を加えた復元案が提示されている。また、この復元案での条里地割は北及び南にややずれるという問題点を同書は指摘している。（濱崎 範子）

【参考文献】

- 1991 『海南市内遺跡発掘調査概報』 海南市教育委員会
- 1992 『且来VI遺跡発掘調査概報』 海南市文化財調査研究会
- 1994 『海南市史第1巻通史編』 海南市
- 1995 『且来VI遺跡 平成7年度』 海南市文化財調査研究会
- 2020 『公益財団法人和歌山県文化財センター年報2019』（公財）和歌山県文化財センター
- 2021 『公益財団法人和歌山県文化財センター年報2020』（公財）和歌山県文化財センター

令和3年度の普及活動

○埋蔵文化財に関する普及事業

・シンポジウム・報告会

和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」

公開シンポジウム「和歌山城築城以前～城の下の遺跡の姿～」

・歴史探訪

「歩いて知るきのくに歴史探訪～中世藤並・田殿の息吹を感じて～」

・埋蔵文化財調査成果展

「紀州のあゆみ」

・埋蔵文化財発掘調査概要パンフレットの作成

・過去調査における撮影フィルムのデジタル化

・発掘調査説明会・現地公開

「小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡発掘調査」

「尼寺観音寺跡発掘調査」

「新堂遺跡発掘調査」

○文化財建造物に関する普及事業

・修理現場見学会

「重要文化財 闘雞神社」

「和歌山県指定文化財 木ノ本八幡神社」

「和歌山県指定文化財 須賀神社」

埋蔵文化財に関する普及事業

埋蔵文化財関係での令和3年度の普及啓発事業は9件の事業を実施した。このうち、文化財調査報告会、公開シンポジウム、歴史探訪、埋蔵文化財調査報告会、埋蔵文化財発掘調査概要パンフレット作成、過去調査における撮影フィルムのデジタル化は国庫補助金を受けて実施した。このほか、各発掘調査現場において現地説明会・公開を実施した。

また、季刊情報誌『風車』の刊行の他、各事業において資料集やマップ等を作成し、参加者及び周辺自治体、研究機関等に配布した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業については、動画を撮影・編集し、当センターのYouTube 公式チャンネルで動画配信の形をとった。

和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」

令和4年3月31日に当センター公式YouTubeチャンネルにて、前年度の埋蔵文化財調査の成果などを県

民等へ周知するため、和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」と題して動画を配信した。令和4年5月26日現在、再生回数は196回、事前申込者数は35人である。

報告内容は、「且来Ⅵ遺跡―新たな方形周溝墓の発見―」濱崎範子（当文化財センター）、「且来Ⅴ遺跡の発掘調査」矢倉嘉人氏（海南市教育委員会）、「吉原遺跡の発掘調査―弥生時代から古墳時代の墓域と土器埋納遺構―」田之上裕子（当文化財センター）、「県内最大の方墳 岩橋千塚古墳群井辺1号墳の発掘調査」仲辻慧大氏（和歌山県教育委員会）、「岩橋千塚北麓で見つかった中世の屋敷跡―岩橋Ⅱ遺跡の発掘調査―」藤藪勝則氏（（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団）、「絵図に描かれた近世堤防―慈尊院Ⅱ遺跡、慈尊院中小路地先遺跡の発掘調査―」田中元浩氏（和歌山県立紀伊風土記の丘）の6本である。

上記に、誌上報告5本の報告を加えて報告会資料集を刊行した。なお、作成した報告会資料集は、事前申し込み者に郵送するとともに関係機関等に送付した。



地宝のひびき資料集



地宝のひびき 動画収録風景

公開シンポジウム「和歌山城築城以前～城の下の遺跡の姿～」

令和4年3月13日に公開シンポジウム「和歌山城築城以前～城の下の遺跡の姿～」を当センター公式YouTubeチャンネルにて配信した。令和4年5月26日現在再生回数は368回、事前資料申込者数は42人である。

報告は、「紀直と紀国造ー古代紀伊における国造制の成立とその構造ー」栄原永遠男氏（大阪市立大学名誉教授）、「和歌山城周辺の古地形変遷と土地利用」大木要氏（和歌山市文化振興課）、「和歌山城跡北部における古墳時代から中世の様相～和歌山城跡第34次発掘調査から～」福佐美智子氏（（公財）大阪府文化財センター）、「和歌山城跡東部における古墳時代から中世の様相ー県第5次調査（裁判所地点）の成果を中心にー」丹野拓氏（紀伊風土記の丘）の4本である。報告後には各発表者による討論を行い、古代から中世にかけての和歌山城跡周辺の土地利用等について意見を交わした。また、誌上発表として2本の発表を加えた発表資料集を刊行して関係機関に送付するとともに事前申し込み者に郵送した。



シンポジウム 討論収録



シンポジウム 発表資料集（表紙）

歴史探訪「歩いて知るきのくに歴史探訪 ～中世藤並・田殿の息吹を感じて～」

令和3年3月18日、「歩いて知るきのくに歴史探訪～中世藤並・田殿の息吹を感じて～」をオンラインツアーとして当センター公式YouTubeチャンネルにて配信した。令和4年5月26日現在再生回数は190回である。

職員が有田川町の文化財を巡り、解説する動画を作成した。動画内では浄教寺、法蔵寺、青蓮寺、藤並神社、宗祇屋敷跡、藤並館跡、野田の宝篋印塔、吉備名方濱宮神社と国主神社、田殿丹生神社等を紹介し、動画に連動してマップを作成、希望者および関係機関に配布した。



歴史探訪 配布の文化財マップ



職員によるオンラインツアー

和歌山県内埋蔵文化財調査成果展「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された埋蔵文化財関係の調査成果を県民などに公開することを目的に、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館、御坊市歴史民俗資料館で巡回展示

を行った。

展示を行った遺跡は田屋遺跡、和歌山城跡（和歌山市）、且来VI遺跡（海南市）、土井ノ森城跡（紀の川市）、真田屋敷跡（九度山町）、吉原遺跡（美浜町）、上城遺跡、上城城跡（みなべ町）、龍松山城跡（上富田町）、結城城跡、浦屋敷跡（串本町）、新宮城下町遺跡（新宮市）、パネル展示を行った遺跡は井辺1号墳（和歌山市）、根来寺遺跡（岩出市）、立野遺跡（すさみ町）である。また、後期展の会場である御坊市を代表する遺跡として堅田遺跡、湯川氏館跡を出土遺物と共に紹介した。

展示期間は、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館では令和3年5月29日～6月27日、御坊市歴史民俗資料館では令和3年11月20日～12月19日であった。また、来館者はそれぞれ1,015名、198名であった。

なお、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館で6月20日に、御坊市歴史民俗資料館では12月12日に紀伊風土記の丘主催の展示講座において当センター職員が吉原遺跡、且来VI遺跡についての調査成果や出土遺物について紹介し、展示解説を行った。



紀州のあゆみ 職員による展示解説風景



紀州のあゆみ 展示解説リーフレット（一部）

埋蔵文化財発掘調査概要パンフレットの作成

（財）和歌山県文化財センター、又は（公財）和歌山県文化財センターが発掘調査した遺跡のなかで、大部分、または主要部分について発掘調査を行った遺跡、発掘調査によって大きな成果が得られている遺跡を選び、概要パンフレットを一般向けに作製した。

本年度作成したのは、古墳時代から近代まで土地柄を生かした焼き物生産が行われていた有田川町の藤並地区遺跡と土生池須恵器窯跡を対象とした。

パンフレットはA4縦型で、A3用紙を2つ折りで製本した。



発掘調査概要パンフレット（一部）

過去調査における撮影フィルムのデジタル化

当センターが保有する写真資料の活用を図るためフィルムでしか保存されていない写真をフィルムスキャナーを使いデジタルデータ化した。今年度は報告書13冊（1191枚）を対象に実施した。

現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の現地公開を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に参加者を得ることができた。現地公開を開催した遺跡と開催日及び参加者は、以下の通りである。

【現地公開】

・小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡及び小浦城跡

令和3年9月15日～17日 参加者30名

・尼寺観音寺跡 令和3年12月6日 参加者13名

・新堂遺跡 令和4年3月24・25日 参加者33人



尼寺観音寺跡現地公開



新堂遺跡現地公開

文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元の教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。建造物修理について関係者や近隣住民の理解を深め、次世代につなぐ契機となるように配慮した。



修理現場の見学会状況（闘鶏神社）

文化財に関わる研修事業に協力し、和歌山県内における工事の内容や建物の特徴について解説を行った。ヘリテージマネージャースキルアップ講習会（和歌山県建築士会開催）や県内の地域文化に関する講座に講師を派遣するなど、文化財建造物保存修理事業に伴う調査成果に基づいた知見を広く県民に還元した。

(公財)和歌山県文化財センター 令和3年度(2021) 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	6件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	11件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	20件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	(提案日) 03.06.4	書面会議	(承認日) 03.06.10
評議員会	(提案日) 03.06.16	書面会議	(承認日) 03.06.24
理事会	03.11.30	中間報告(書面)	
理事会	(提案日) 04.03.22	書面会議	(承認日) 04.03.28

埋蔵文化財課関係

全国埋蔵文化財法人連絡協議会等

令和3年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会第1回役員会	03.05.14	オンライン開催
令和3年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会第2回役員会	03.12.02-03	オンライン開催
令和3年度第1回(第63回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	03.06.11	オンライン開催
令和3年度第2回(第64回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	04.02.25	オンライン開催
第35回全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック事務担当者会議	03.12.03	
令和3年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックコンピュータ等研究委員会	04.03.29	書面会議

文化財建造物課関係

令和3年度重要文化財建造物保存修理事業等監督者会議	03.04.08	主催：文化庁 オンライン開催
令和3年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会(第67回)	03.10.18	主催：文化庁 オンライン開催

委員委嘱

川崎 雅史 御坊市文化財保護審議会委員	03.04.01-04.03.31	御坊市教育委員会	02.04.01 付依頼
川崎 雅史 みなべ町文化財保護審議会委員	03.04.01-04.03.31	みなべ町教育委員会	02.04.01 付依頼
川崎 雅史 坂本付城跡、竜松山城跡調査検討委員	03.04.01-04.03.31	上富田町教育委員会	02.04.01 付依頼
高橋 智也 土木学会選奨土木遺産関西支部推薦委員会 調査部会委員	03.04.01-04.05.31	公益社団法人 土木学会関西支部	03.04.01 付依頼

III 講師等派遣・執筆など

埋蔵文化財課関係

濱崎 範子「且来VI遺跡における最新の発掘調査成果—新たに確認された方形周溝墓を中心に—」紀伊考古学研究会例会	03.06.19	於：オンライン
田之上裕子「吉原遺跡」展示講座「紀州のあゆみ展」県立紀伊風土記の丘	03.06.20	於：和歌山県立紀伊風土記の丘資料館
濱崎 範子「且来VI遺跡」展示講座「紀州のあゆみ展」県立紀伊風土記の丘	03.06.20	於：和歌山県立紀伊風土記の丘資料館
森田真由香「展示遺物解説」展示講座「紀州のあゆみ展」県立紀伊風土記の丘	03.06.20	於：和歌山県立紀伊風土記の丘資料館
川崎 雅史「新宮城下町遺跡調査委員会」新宮市教育委員会	03.06.29	於：和歌山県立博物館
高橋 智也「和歌山・和歌山城跡」『木簡研究』第43号	03.11	発行
濱崎 範子「由良町の戦争遺跡」講師 広川町耐久生涯大学	03.12.11	於：白崎海洋公園

文化財建造物課関係

下津健太郎「闘雞神社氏子見学会」見学解説	03.05.23-24,30	於：闘雞神社
大給 友樹「木ノ本八幡神社本殿修理工事説明会」見学解説	03.05.23,07.07	於：木本八幡宮
下津健太郎「須賀神社 地元中学生、小学生修理現場見学」「上南部小・中学生須賀神社修理現場見学会」見学解説	03.07.02	於：須賀神社
下津健太郎「耐久生涯大学専科 旧戸田家住宅」講師 広川町耐久生涯大学	03.08.07	於：旧戸田家住宅
下津健太郎「南部ライオンズクラブ例会・須賀神社修復現場見学」見学解説	03.08.19	於：須賀神社

多井 忠嗣・下津健太郎「令和3年度文化財保存事業技術者養成教育第7回」 研修対応（公財）文化財建造物保存技術協会	03.10.04-05	於：鬺雞神社、熊野本宮大社 金剛三昧院、金剛峯寺他
下津健太郎「耐久生涯大学専科 廣八幡宮」講師 広川町耐久生涯大学	03.10.09	於：廣八幡宮
下津健太郎「田辺はまゆうロータリークラブ例会卓話」講師	03.10.12	於：鬺雞神社
下津健太郎「みなべ観光セミナー第3回 須賀神社」見学解説	03.11.13	於：須賀神社
下津健太郎「ヘリテージマネージャーのための文化財建造物保存修理技術スキル アップ講習会」見学解説	03.12.11	於：鬺雞神社
下津健太郎「重要文化財（建造物）鬺雞神社本殿・上殿の修理現場特別公開」 見学解説	04.01.16	於：鬺雞神社
多井 忠嗣「琴ノ浦温山荘園浜座敷・近畿建築士会連絡協議会女性部会」 オンライン見学会講師	04.01.29	於：温山荘浜座敷
下津健太郎「重要文化財鬺雞神社本殿ほか三棟 ―神社と事業の紹介―」 『文建協通信 146号』	03.10 発行	

IV 刊行図書・出版物等

年報

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2020』	03.05.31 発行
----------------------------	-------------

埋蔵文化財課関係

報告会・シンポジウム資料等

『和歌山県内埋蔵文化財調査成果展 紀州のあゆみ』展示解説リーフレット	03.05.29 発行
『地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会―』資料集	04.01.23 発行
『藤並地区遺跡と土生池須恵器窯跡～時代をこえたものづくり～』和歌山県の文化財⑥パンフレット	04.03.04 発行
『公開シンポジウム 和歌山城築城以前～城の下に眠る遺跡の姿～』発表資料集	04.03.13 発行
『歩いて知るきのくに歴史探訪 ～中世藤並・田殿の息吹を感じて～』当日配布マップ	04.03.18 発行

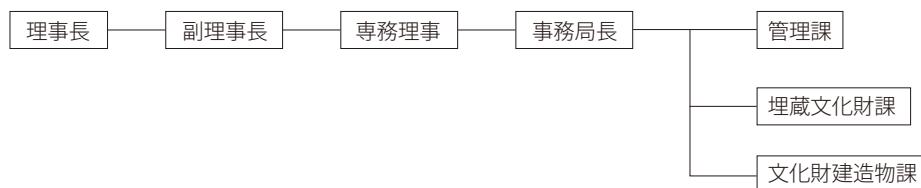
『風車』紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌『かざぐるま』

風車 95	2021 夏号	特集「且来VI遺跡の発掘調査について」	03.07.31 発行
風車 96	2021 秋号	特集「木ノ本八幡神社本殿の保存修理工事」	03.11.30 発行
風車 97	2021 冬号	特集「田屋遺跡の発掘調査～場を変え長く続いた集落～」	04.01.31 発行
風車 98	2022 春号	特集「尼寺観音寺跡の発掘調査」	04.03.31 発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理 事 長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮崎 泉	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	宮地 良治	元紀中県税事務所長
理 事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理 事	小野 健吉	大阪観光大学 特任教授
理 事	工案 善通	大阪府立狭山池博物館 名誉館長
理 事	鈴木 嘉吉	元奈良国立文化財研究所長（～ R3.06.23）
理 事	中村 浩道	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長
理 事	中村 貞史	元大阪経済大学非常勤講師
理 事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会会長

役員（監事）

監 事	風神 正典	税理士・風神会計事務所 代表社員
-----	-------	------------------

監 事	橘 誠	和歌山県教育庁 生涯学習局長
-----	-----	----------------

評議員

井藤 徹	日本民家集落博物館 館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 代表役員
栗生 好人	和歌山県教育庁文化遺産課長
佐々木公平	宗教法人広八幡神社 代表役員
千森 督子	和歌山信愛大学 教授
中村 拓司	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
西山 耕司	和歌山県立博物館 副館長
日向 進	京都工芸繊維大学名誉教授
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長

職員

事 務 局 長	平林 照浩（管理課長事務取扱）
---------	-----------------

管 理 課

課 長 補 佐	松尾 克人
主 査	出口由香子
副 主 査	石山 慎二

埋 蔵 文 化 財 課

課 長	高橋 智也
副 主 査	土井 孝之（～ 03.10.22）
副 主 査	川崎 雅史
技 師	森田真由香
技 師	田之上裕子
技 師	濱崎 範子
専 門 調 査 員	佐伯 和也

文 化 財 建 造 物 課

課 長	多井 忠嗣
主 査	下津健太郎
副 主 査	大給 友樹

表紙図案

表紙右上	且来V遺跡出土土師器
表紙下	木ノ本八幡神社 正面図
表紙裏	木ノ本八幡神社 桁行断面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2021

2022 年 6 月 3 日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の 1

TEL 073-472-3710

FAX 073-424-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>

E-Mail: kanri-2@wabunse.or.jp

【印刷】

白光印刷株式会社

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>

